ヲ使用スル毎ニ右ニ相當スル額ノ銀塊ヲ上海ニ積立ツル案ヲ提示シタル趣ニテ一箇月前香上等ヨリ自分ニ對シ本件計畫ニ對シ外交的援助ヲ期待シ得ヘキヤ否ヤヲ照會越シタルニ付本國政府ト打合セタル結果本件ハ正式ニ政府筋ヨリ自分ニ申出アル場合ニ限リ考慮スヘシトノ趣旨ヲ支那側ニ回答セシメ置キタル處最近孔財政部長ヨリ自分ニ對シ英貨二千萬磅ノ借款ヲ申出テ來レリ英國ハ借款ニハ絶對應スル意思ナキニ付右ノ旨ヲ孔部長ニ回答シ置キタリト内話セル趣ナリ

北平、南京ニ轉電セリ

324 昭和9年12月20日 在漢口三浦総領事より 広田外務大臣宛(電報)

アンチモニー一手販売権に関する英国商との交渉打切りにより今後日本側の援助を希望する旨湖南省主席代理申出について

漢口 12月20日前発
本省 12月20日後着

第三三六號

長沙發本官宛電報

第七三號

大臣ヘ轉電アリタシ

第六七號

往電第六〇號?及機密第二八八號?ニ關シ

本月十五日「アンチモニー」問題ニ付省政府代理主席曹典球往訪ノ際曹ハ「アーノルド」トノ契約交渉打切ニ應スルノ意ヲ洩シ居タルカ本十九日同人ハ聯合貿易處ヲシテ交渉打切ヲ正式決定セシメタル旨申越スト共ニ今後日本側ノ援助ヲ望ム旨重ネテ依頼越セリ豫テ同人ニ對シテハ日本側ハ決シテ他ヲ排シテ拔駈ノ利權ヲ得ントスル次第ニアラサルコトヲ説示スルト共ニ三井及三菱側ニテハ買付ノ形式ヲ以テスルナラハ援助ニ吝ナラサル意向ナル旨申聞ケ置キタル處曹ハ十五日以來日本側ノ利便ヲモ考ヘ昨日既ニ貿易處制度ノ一部ヲ變更セリトテ具体案ヲ持出シ來レリ

支、北平、南京ヘ轉電セリ

2 中国建設銀公司の設立

325 昭和9年2月16日 在南京須磨総領事より 広田外務大臣宛(電報)

中国開発事業に対する国際協力の具体案作成に当たり日本を除外しない旨をモネ言明について

南京 2月16日前発
本省 2月16日後着

第一一八號

(欄外記入)

(1)公使發閣下宛客年往電第七四三號(編注)ニ關シ

本官上海出張ノ序ヲ以テ十三、四ノ両日ニ亘リ「モネー」及「ソルター」ト會見其後研究ノ結果結論ニ達シタルヤヲ尋ネ長時間ニ亘リ會談シタルカ其要領左ノ通

一、「ソルター」談

自分ノ専門タル幣制及税制ヲ中心トシテ支那一般財政ニ付研究ヲ遂ケタルニ宋子文ノ云フ通リ數字ハ成程符合スルモ右數字カ肝心ノ事實ニ即セサルヲ發見シ結局支那財政ヲ闡明スルニハ實情ヲ萬遍ナク踏査スルノ外ナク自然地理的及政治的ニ最モ近接スル日本ヲ措キテ之カ眞相ヲ摑ミ得ル國ハ尠キヲ痛感セリ從ツテ「ラモント」「アディス」及「キングスレー」邊リニ於テ日本ヲ除ク關係(國)?ニ依リテ支那復興ヲ考慮セントシタル企ハ空想ニ過キサルヲ發見セリ右様ノ實情ナレハ此儘滯留スルモ何等甲斐ナキニ付三月頃歸國ノ予定ヲ早メ來週中ノ便船ニテ英國ニ直航スル積ナリ

二、「モネー」談

過般ノ御話ニハ充分考慮ヲ拂ヒ研究シ隨時「ラモント」及「アデ(イ)ス」ニモ事情ヲ申送リ其意見ヲモ徴シ(未タ何等ノ表示ナシ)「リットン」卿ノ故智ニ倣フ譯ニハ非サルモ十五日離滬北平ニ赴キ仝地ニテ一週間位熟慮ノ上結論ヲ書上ケ本月末頃歸寧ノ上貴官ニ之ヲ内示シ種々意見ヲ交換シ度キ所存ナルカ

(2)右結論中先ツ申上置度キ感想ハ豫テ御話ノ通リ苟モ國際的ニ支那ノ建設ニ助力セントセハ日本ノ役割ハ之ニ缺クヘカラサルノミナラス或ハ貴説ノ如ク日本ニ「プレドミナント、シエーア」ヲ與フル事モ事實上必要ナルヘキヲ漸次納得セル事實ナリ從ツテ「ラ」及「ア」ニ對スル報告中ニハ日本ヲ除外スルカ如キ案ハ決シテ提示セサル心

組ナレハ此ノ點御安心アリ度シト述ヘ大体「ソルター」同様ノ感想ヲ附加シ又六七月頃迄支那ニ滞在ノ豫定ナリシカ玆一二ケ月ニテ切上ケ米國經由歸國シ度ク又石井子爵ニモ面會ヲ得度キニ付豫テ御勸メノ通リ是非暫時ナリトモ日本ニ滞在シ度キ希望ナリト述ヘ居タリ

三、「ライヒマン」ハ本官等トノ會見ヲ避ケ居ル爲其直接ノ意見ヲ承知シ難キモ「モネー」其他諸方面ノ情報ニ依レハ經濟委員會等ニ關シ相當活動シ居ルカ如キモ支那ノ一般情勢ニ付鮮カラス悲觀ニ傾キ居リ殊ニ宋辭職以來豫定計畫ニ大ナル齟齬ヲ來シタルカ如ク現ニ「ゴールドマン」（獨逸系猶太人）ナル獨逸醫術行政學者ヲ支那社會衞生顧問トシテ傭聘シ置キ乍ラ資金缺乏ヲ理由ニ之ヲ破約セル等ノ事アリ外人間ニモ漸次評判惡シキ模様ナリ

支、北平ヘ轉電セリ

（欄外記入）

石井子爵ニ内示ノコト

編　注　『日本外交文書』昭和期II第一部第二巻第451文書。

326　昭和9年3月8日　在南京須磨総領事より広田外務大臣宛（電報）

中国開発に関する国際協力問題に関しモネと意見交換について

南　京　3月8日前発
本　省　3月8日後着

第一九三號

往電[1]第一一八號(二)ニ關シ

本七日「モネー」ハ「ドラモンド」同道本官ヲ來訪シ

一、豫定通リ二月末迄北平ニ滞在シ結論ヲ急キタルモ的確ナル判斷ヲ得ス其ノ儘上海ニ引返シ爾來一週間研究ヲ續ケタルカ御話ノ次第ニモ從ヒ更ニ一週間位ノ豫定ヲ以テ廣東ヲモ視察ノ上結論スルコトニ決定セリ打明ケテ簡單ニ申上クレハ結論ノ骨子ハ大体前回通ニシテ最近ハ宋子文、孔祥熙等ニ於テモ日本ヲ除外シテノ國際協力カ無駄ナル點ニ大部氣附キ居ル模様ニテ之カ爲例ヘハ日本ヲ除外セント意氣込ミ居タル「ライヒマン」ノ如キ手ノ出シ様ナキ有様ナレハ從テ自分モ此ノ筋ニ依リ結論ヲ作リ上ケント考ヘ居レリ

二、更ニ顯著ナル事態ハ支那側モ段々實際的考ヘ方ニ傾キ來レルコトニテ例ヘハ孔祥熙ハ關税問題ヲ頭痛ノ種トシ居ルモ之カ解決ニハ密輸入問題ヲ取捌ク必要アル處結局之ニハ日本ノ協力カ必要ナルコトヲ痛感シ居ルモノノ如シ（往電第一四〇號參照）ト述ヘタルニ付本官ヨリ密輸入ノ大部分ハ支那人ノ手ニ依リ戎克船ヲ以テ行ハルルモノニシテ自分ノ廣東在勤時分ノ聞込ヲ申上クレハ支那官憲殊ニ支那法官カ之ニ干與セル有様ナリト語リタル處「モ」ハ自分モ他ヨリ之ヲ聞キ一驚シ居ル次第ナリト言ヘルニ付本官ヨリ更ニ支那ノ根本的ニ考フ可キハ密輸ニ非スシテ税率ノ低下ナリト指摘シタルニ「モ」ハ全ク同感ナルカ密輸ハ一遍遣リ出セハ味ノ忘レラレヌモノ税率ヲ下ケテモ增收トナルヤ否ヤハ疑問ナリ唯自分モ之ヲ「エコノミツク、レヴエル」ニ迄引下クルコトヲ强調シ居リ支那側要人ヨリモ大体引下ニ傾キ居ルカ如キ印象ヲ得タリ此ノ點ハ支那側カ實際ニ卽セル考方ニ傾キ居ル一例ト見ル可シ

三、[2]又「モ」ハ要人中ニハ日支實業家カ頻繁ニ往來スルコトハ兩國經濟關係打開上最モ必要ナリト考ヘ居ルモノ鮮カラス自分モ右ハ誠ニ好キ傾向ナリト思考シ居レリト述ヘタルニ付本官ヨリ往電第一六九號「ルール」問題直後ノ獨佛關係ヲ引例説明セルニ「モ」ハ御説ニハ「リザーヴ」無シニ贊成ナリト述ヘ居タリ

四、「モ」ヨリ西南方面ノ政治問題モ片付キカケ一方宋モ最近汪、孔ト協力シ出セル爲經濟委員會モ動キ出シ一般ニ大分活氣付キタル様見受ケラル殊ニ要人連ノ意見ハ日支問題妥結カ支那ノ重大案件ナリト云フニ一致シ居ル模様ナルカ何等カ兩國接近ノ機運動キ來レルモノト觀察セラルル處如何ナリヤト尋ネタルニ付本官ヨリ支那人ハ「フエース、エンド、ポケツト」ニ依リ動クコト多キコト御承知ノ通ナルカ日本ハ終始動カサル信念ヲ以テ機會有ル毎ニ之ヲ説示シ居ルヲ以テ段々徹底スルコトヲ希望シ居ルモ唯今ノ處支那側ノ誠意ハ事實上ニハ現ハレ居ラス支那ノ事態及日本ノ支那ニ對スル眞劍ナル覺悟カ貴下等ニ段々御了解行キタルハ結構ナルモ平生ヨリ申上ケ居ル通リ支那ノ對日態度ニハ仲々裏アルコトナレハ表面二、三ノ体裁好キ事實ヲ御覽ニナリタルノミニテ餘リ樂觀的ナル結論ニ「ジャンプ」セラルルコト無キ様致度シト附言

シ置キタリ

尙「モ」ハ近頃ハ餘程緩和セラレタルモ自分ノ貴官トノ接觸ハ多分支那側ニ於テモ注意シ居ル模樣ナレハ何レ上海ニテ再會ノ機ヲ得度シト述ヘ居タリ

支、北平ヘ轉電セリ

327　昭和9年3月13日　在南京須磨総領事より広田外務大臣宛（電報）

中国開発に関する国際協力問題についてのモネ構想は中国の現状に適合せず実行不可能の旨同人へ説示について

南　京　3月13日前発
本　省　3月13日後着

第二〇八號

往電[1]第二〇七號「ラ」等ト會食前特ニ「モネー」ノ求ニ依リ二人ノミニテ一時間會談セルカ要領左ノ通

一、「モ」ヨリ列國ノ對支協力案ノ結論ヲ急キ居ル處最近ハ西南方面カ中央ト合作シ所謂西南政務委員會サヘ近ク解消セラルヘシト確聞セルカ之カ出來レハ支那ノ「スタビリティー」モ確定セラルル譯ナレハ最近特ニ力ヲ得具體案作成ニ努力シ居ル次第ニテ此ノ際特ニ御相談致度シト前提シ國際合作ニハ中央ノ統一ト剿共事業ノ成功トカ二大前提要件ナリト思考シ居レルカ剿共ノ方ハ成功スルモノナリヤト問ヘルニ付本官ヨリ西南方面合作ヲ買被リ居ル樣ナルカ成ル程一應內政モ落着キタルカ如シト雖右ハ言ハハ「ペーパー、スタビリティー」ニテ實際的ニハ同方面ノ獨立氣勢ハ決シテ解消シタル譯ニハ非ス又剿匪モ仲々困難ニシテ江西省ノミナラス全國的ノ大問題ト云フヘク根本的ニ全支ノ經濟的建直シヲ完成セサル限リ其ノ成功ハ覺束無カルヘシト答ヘタルニ「モ」ハ御說ハ御尤モナルモ先ツ例ヘハ中央ノ稅制ヲ統一アル仕組ニ改メ之ヲ各地方ニ强行スルトカ又ハ豫算中最モ不合理ナル費目殊ニ軍事豫算ヲ削除セシムルトカシテ「スタビリティー」ヲ確保シ得ヘシ唯最モ懸念ニ堪ヘサルハ自分等ノ案出スル國際合作ノ組織ヲ如何ニシテ支那人ニ植付ケ得ヘキカノ點ナリト持掛ケ來レルニ依リ

本官[2]ヨリ其處ニ氣付カレタルハ眞ニ結構ニテ貴下等カ「ケムメラー」又ハ「リツトン」報告ノ如キ讀者ヲ引摺ル目的ノ讀物ヲ作リ上ケントスルナラハイサ知ラス苟モWorkableノ組織ヲ作ラントスルナラハ必スヤ今御申出ノ疑問ニ到達セラルヘク謂ハハ傳統又ハ歷史ニ過キサル支那ヲ國家組織ト觀テ歐米人ノ見地ヨリ斷案ヲ下サントスル遣方ハ寧ロ支那ニ對シテ有害ナル結果ヲ及ホシ居リ忌彈（憚カ）無ク言ヘハ華盛頓會議以來ノ列國ノ支那ニ對スル安價ナル「センチメンタリズム」ト「アイデアリズム」カ支那今日ノ混亂ヲ助長シ居ルモノト言ハサル可カラス要スルニ支那ノ開發ハ自力ニ依ルノ外無キモノニシテ御努力ハ然ルコト乍ラ國際協力ナトハ先ツ以テ支那ニハ適用不可能ナリト言フヘシト直言セル處「モ」ハ華盛頓會議以來列國カ所謂young Chinaヲ煽動シテ却テ失敗セル經緯ハ「ブランド」ノ著書等ニ依リ承知シ居ル處國際協力無用論ニモ似タル貴說ニ從ヘハ支那ハ「コラプス」シテ國際間ノ「バチルス」トナルノ外無ク接壤國タル日本等ハ差詰メ一般的（?）ニ其害毒ヲ受クルコトトナルヘキニ付何トカシテ國際協力ヲ實現致度之カ爲ニハ御話ノ如ク支那ノ自力ヲ利用スルコトトシ殊ニ支那側ノ面子ヲ立ツル上カラモinternational participationノ如キ形トシ事業ノ發展ハ專ラ支那人ノ責任ニ懸ル仕組ト爲シ度シト考ヘ居レリ

唯[3]之ヲ監督スル爲Controlヲ行フヘキカ右ハ實際ノ所謂Control卽チSupervision位ニ止メ度ク又各事業ノCriterionニ應シ個別的ニ仕組ヲ定メ一方之ニ「パーテイシペート」スル國モ事業ニ依リ數ヲ異ニシ例ヘハ日本ニ關係無キ事業ニハ日本ノ合作ヲ省クカ如キ方式ヲ用ヒ度シト大體ノ見當ヲ附ケ居レリ最近宋子文ノ紹介ニ依リ上海第一流ノ銀行家連トモ數次會見セルカ孰レモ能率、頭腦其他萬般ニ於テ日本ハ識ラス世界何レノ銀行家ニ比較スルモ劣ラサル人物ナルヲ確メタルニ付御話ノ次第ハアルモ何等カ出來得ヘシト思ヒ折角具體案作成ヲ急キツツアリト述ヘタルニ依リ

二、本官ヨリ貴下ノ言ハルル如ク成ル程個人トシテハ「スマート」ナルヘキモ元來眼中面子ト金以外ニハ何物モ無キカ本體（?）ナレハ組織ニ不可缺ノ「テイーム、ワーク」等到底出來得ル筈無ク假リニ一歩ヲ讓リ銀行トシテ恥カシカラサル仕組カ出來上リタリトスルモ政府ヨリ一喝ヲ喰ヘハ忽チ組織ヲ崩壞セシムル事必定ニシテ一例ヲ擧ケン

カ鹽税擔保ノ借款支拂ヲ確保スル爲日英佛三國ノ砲艦ヲ以テ迫リタルモ尚之ヲ果シ得サリシ實情ニテ斯種出來事ハ將來モ繰返サルルモノト覺悟セサルヘカラス貴説カ理想論ニ墮セントスルハ眞ニ遺憾ナリト述ヘタルニ「モ」ハ成ル程自分モ大體觀察ヲ同ウスルモ「コントロール」ノ仕組ヲ宜クセハ適當ニ導ク事敢テ至難事ニ非サルヘク廣東ニ於ケル young generasion(generationカ)ノ如キハ殊ニ素質良好ナリト承知シ居レハ貴説ノ如ク悲觀スルニモ及フマシトテ中々ニ賛成セス

[4]依(三、欠カ)テ本官ヨリ更ニ元來支那ヲ「コロナイズ」シ得ヘキ代物ト心得居ラルルヤト問ヘルニ「モ」ハ御話ノ通リ長キ傳統ノ勢强烈ニテ植民化等思モ寄ラスト述ヘタルニ依リ本官ヨリ貴説ハ「モロツコ」等ニハ適用可能ナルモ支那ニテハ見込無カルヘキコト御諒解行カスヤ論ヨリ證據北京政府時代ノ代議政治ナリ共和政治ナリ將又蘇聯ニ倣ヘル國民黨ノ委員政治ナリハ何レモ失敗ニ歸シタルノミナラス經濟上ヨリ言フモ綿業ニセヨ蠶業ニセヨ何一ツ組織ヲコナセル驗シ無ク要スルニ支那ニハ新ラシキ組織ヲ運用スルノ能力無キコト既ニ立證セラレ居ルニアラスヤ「コロナイズ」スルカ少クトモ强力ヲ以テ國際管理ヲ行ハサル限リ直言乍ラ先ツ貴説ノ如キハ實行ノ餘地無キモノト言フヘク結局支那ニ對シテハフンダンニ金ヲ「ドネイション」トシテ提供スル以外ニハ採ルヘキ策無カルヘシト强調シ置キタルニ「モ」ハ貴説ノ如クニテハ自分等來タ甲斐モ無キコトトナレハ先ツ出來ソウナ事業ヨリ始ムルコトトシ大体御話ノ諸點ヲ念頭ニ置キツツ具体案ヲ作リ度シト述ヘタル後一寸開キ直リ

四、從來貴官トノ接觸ニ依リ日本ヲ除外セサル國際協力ナラハ不賛成ニアラサルヤノ印象ヲ持チ居タル處段々ノ御話ニ依リ國際合作ハ無駄ナリトノ御意見ナルコトヲ突止メタルカ右ハ日本ヲ代表シテノ御意見ナリヤト尋ネタルニ依リ自分ハ何物ヲモ代表セサルモ苟モ支那ノ爲ニ計ラントスル國際人トシテノ常識ヲ率直ニ述フルモノハ右以外ノ結論ヲ見出シ得サルヘシト應酬シ置キタリ

支ニ轉電セリ

328　昭和9年3月13日　在南京須磨総領事より広田外務大臣宛(電報)

モネによる国際協力具体案作成への対応振り請訓

南　京　3月13日前発
本　省　3月13日後着

第二〇九號

往電第二〇八號ニ關シ

「モ」ハ其ノ内具體案ヲ本官迄内示スルコトトナルヘキカ右案ハ結局「ラモント」「アディス」等ニ相談ノ上ナラテハ決定ニ至ラサルヘキモ今ノ内强ク我方立場ヲ主張シ當方ノ腹ヲ知ラシメ置クコト必要ト思考セラルル處段々ノ御訓令ニ依リ支那ニ對スル國際合作ニハ我方トシテ極力反對ナルヘキ御趣旨ハ充分ニ承知シ居ルモ「モ」ニ對スル此ノ上ノ應酬振ニ付至急御回電相成度シ

支ヘ轉電セリ

(欄外記入)

充分ニ指導スルコト

329　昭和9年3月19日　広田外務大臣より在米国斎藤大使、在英国松平大使、在中国有吉公使他宛(電報)

日本の権威と実力が東亜平和維持の基礎であり中国に関する国際問題については日本を主とするよう各方面に徹底方訓令

別電一　三月十九日発広田外務大臣より在米国斎藤大使、在英国松平大使、在中国有吉公使他宛合第三〇三号

中国に対する国際協力問題への我が方立場をモネらに徹底方訓令

二　三月十九日発広田外務大臣より在米国斎藤大使、在英国松平大使宛合第三〇四号

右我が方立場

本　省　3月19日発

合第三〇二號

一、(イ)支那ノ狀況カ極メテ異常ノモノニシテ從テ普通ノ國際法規及慣例ヲ以テ律シ得ヘカラサルコト又同國ノ改善ハ一般歐米人等ノ考フルカ如キ生優シキモノニ非ルコト(ロ)

右事態ニモ顧ミ東亞ニ於ケル日本ノ權威ト實力トカ同方面平和維持ノ唯一ノ基礎タルヘク從テ支那ニ關スル國際問題ニ付テハ當然日本ヲ主トスヘキモノナルコトハ從來我方ニ於テ累次表明シ來リ殊ニ右(ロ)ノ點ハ一月二十三日帝國議會ニ於ケル本大臣演說中ニ强調シ置キタル次第ナルカ將來共敍上ノ趣旨ニ基キ世界各方面ノ啓發ニ努ムルト共ニ支那問題ニ關聯スル各種ノ具体的案件ヲ前記「ライン」ニ基キ根氣强ク處理シ行クコト肝要ニシテ我方トシテハ右方針ヲ堅持スル結果或ハ支那ニ於ケル利權ノ獲得其ノ他ニ付目前多少ノ不利ヲ受クルカ如キコトアリトスルモ飽迄東亞永遠ノ大局ニ主眼ヲ置キ帝國外交ノ大目的ノ貫徹ヲ期セサルヘカラサル義ト存ス

二、而シテ右方針遂行ノ爲ニハ本省及出先相呼應シ努力精進スルノ要アルコト申迄モナキ義ナルニ付テハ別電A及別電B御參照ノ上前記第一項(イ)及(ロ)ノ趣旨ヲ隨時各方面ニ徹底セシムル樣此ノ上共御配慮相成度

本電並ニ別電A及B宛先、在米大使及在英大使

本電及別電A及B在英大使ヨリ在歐各大使及壽府ヘ暗送シ在米大使ヨリ在伯大使ニ轉電シ加奈陀及紐育ニ暗送アリ度

本電及別電Aノミノ宛先、在滿大使、在支公使、北平、青島、福州、厦門、廣東

本電及別電Aノミ在支公使ヨリ南京及漢口ヘ、北平ヨリ天津ヘ、青島ヨリ濟南ヘ、廣東ヨリ香港ヘ暗送アリ度

別電B(本大臣發南京宛電報第三六號)在支公使ヨリ天津、青島、濟南、漢口、福州、厦門、廣東及香港ヘ暗送アリ度

在滿大使ヘハ本省ヨリ暗送セリ

(別電一)

本　省　3月19日発

合第三〇三號

別電A

曩ニ宋子文ノ招請ニ應シ渡支セル「モネー」(同人ハ支那建設事業ニ對スル國際協力ノ可能性等ニ關聯シ最近ノ日支關係及支那ノ實狀ヲ視察報告方「ラモント」、「アデイス」及「キンタースリー」等ヨリ內密依賴ヲ受ケ居ル由)ハ十一月下旬上海著爾來支那側關係要人ト意見ヲ交換シ又北平等ヘ旅行シタル上目下對支國際協力案ノ結論ニ付考ヲ練リ居ル趣ナル處我方ニテハ在支公使及在南京總領事等ヲシテ絕エ

ス「モ」等ト接觸セシメ其ノ指導ニ努メシメ來レル結果「モ」等ハ日本ヲ除外シテノ國際協力ノ無駄ナルコトニ關シテハ多少悟リ來レル模樣ナルモ支那ノ事態及日本ノ立場ニ關スル認識未タ充分ナラサルモノアリト認メラルルヲ以テ更ニ同人等ニ對スル應酬振トシテ別電合第三〇四號(本大臣發在南京總領事宛電報第三六號在支各公館ニ對シテハ在支公使等ヨリ郵送セシム)ノ通リ訓令セリ

(別電二)

本　省　3月19日発

合第三〇四號

別電B

本大臣發南京宛電報第三六號

一、(イ)支那ニ於ケル建設事業カ有效ニ行ハルルカ爲ニハ同國ノ統一及各地方ノ治安維持ヲ必要トス然ラサレハ總テノ努力ハ單ニ精力ト金錢トヲ浪費スルニ終ルヘキニ止ラス却テ支那國民ノ負擔ヲ加ヘ(例ヘハ斯クシテ浪費セラレタル借款ハ國民ノ負擔トシテノミ殘存ス)又支那內部ノ混亂ヲ增スノ結果トナルニ過キス(此ノ點ニ於テ例ヘハ支那ニ於ケル鐵道ノ發達ハ大軍ノ輸送ヲ容易ナラシメ同國ノ內亂ヲ助長セリトノ學者ノ議論ハ首肯スルニ足ル又近代式武器カ軍閥鬪爭ヲ激化スルノ一原因タルコト周知ノ事實ナリ)

(ロ)然ルニ支那カ近キ將來ニ於テ右(イ)ノ要件ヲ充シ得ヘキ狀態ニ達スルノ望ハ極メテ薄キノミナラス事態ハ何等改善ノ見込ナキヤニ認メラル(例ヘハ最近ニ於ケル國民政府ノ財政行詰リハ支那政局ノ前途ニ對スル大ナル悲觀材料ナリ、又支那政局ノ一時的好轉ヲ以テ前途ヲ樂觀スルカ如キハ全然素人ノ見解ナリ)

二、(イ)又右建設事業ニ對スル國際合作ヲ效果アラシメムカ爲ニハ第一項(イ)ノ要件ニ加フルニ支那カ善意ヲ以テ外國ノ協力ヲ求ムル氣持トナルコトヲ要ス

(ロ)然ルニ從來支那カ外國ノ援助ヲ求ムルハ外國ノ協力ニ依リ改善ヲ計ラムトスル誠意ニ出ツルニ非スシテ外國ノ援助ヲ惡用(例ヘハ政治的ニハ所謂以夷制夷政策トシテ現レ又金錢的ニハ外國借款ノ踏倒シトシテ現ハル)セムトスルニ過キス固ヨリ一、二ノ例外ハアルヘキモ支那ノ官吏及民間カ右樣ノ態度ヲ以テ外國ヲ惡用セ

ントシ居ルコトハ過去幾多ノ事實ノ證明スル所ニテ今日ト雖何等ノ變化ナシ(二月九日附上海商務官發本大臣宛公信商機第四三號ノ事實ハ此ノ際「モネー」等ノ注意ヲ惹クヘシト存スルニ付右公信寫貴方ニ取寄セラレ度)

(ハ)支那側カ善意ヲ以テ外國ノ協力ヲ求ムル氣持トナラサル以前生仲外國カ世話ヲ燒ケハ支那ハ外國ノ眞意ヲ解セス却テ外國ヲ惡用セムトノミ心掛クヘク結局外國ヨリ支那ニ對シ好意ト金錢トヲ唯タ呉レテヤルコトニ終ルヘキノミナラス一方前記ノ如ク支那内部ノ混亂ヲ增シ他方同國ニ關係アル列國間ノ紛糾ノ種ヲ播クニ過キサルヘシ(棉麥借款ノ如キハ最近ノ適例ナリ)

三、(イ)支那ノ建設事業ニ對スル國際合作ハ東亞ニ於ケル日本ノ實力及權威ニ顧ミ又日本カ何國ニモ勝リ支那ノ實情ニ通シ居ル事實ニ鑑ミ右合作ノ立案モ實行モ共ニ日本ヲ主トスヘキモノナルコト勿論ナリ

(ロ)一方前記第一項及第二項ノ要件カ完全ニ充タサレサル以前ニ何等カノ國際合作ヲ有效ニ行ヒ得ヘシトセハ其ノ唯一ノ方法ハ右日本ノ權威ト實力トヲ「バツク」トスルコトナリ蓋シ支那政局ノ動向カ前記第一項(ロ)ノ如クナルニ對シ日本ノ威力カ有力ナル「スタビライジング、パワー」ナルコト公平ナル見地ニ立ツモノノ何人モ認ムル所ナルヘシ(山東地方カ比較的平靜ヲ保チ居ルノ事實、塘沽停戰協定以後ニ於ケル北支ノ狀況及上海事件後ニ於ケル同地方ノ狀況等ヲ見ハ思半ニ過クルモノアルヘシ)之ニ反シ日本ノ睨ミカ利キ居ラサレハ支那自身ノ破壞力ハ一層顯著ニ作用スヘク此ノ日本ノ力ハ極東ニ於テハ聯盟モ英米モ其ノ他何人モ有セサル所ナリ

編注　広田外務大臣より在南京須磨総領事宛電報第三六号は三月十七日発電。

330　昭和9年3月30日　在南京須磨総領事より広田外務大臣宛(電報)

中国側一部にあるライヒマン、モネなどへの批判的評価について

南京　3月30日後発
本省　3月30日後着

第二七六號

「ライヒマン」「ソルター」「ドラモンド」等ニ對シテ我方主張ノ徹底スル樣説得ニ努力シ居ル次第ハ累次報告ノ通ナルカ一方支那側カ如何ニ彼等ヲ觀測シ居ルヤニ付テモ注意ヲ怠ラサリシ處先般李銘(最近宋子文ト餘リ善カラサル由)ハ大村ニ對シ「モネー」等國際「ブロウカー」ニ過キスト極言シタル趣ナルカ豫テ夫レト無ク支那側空氣ヲ内査セシメ居タル「マクダニエル」ハ廿八日本官ヲ來訪シ例ヘハ「シユルター」ノ如キ僅々四五ケ月ノ滯在ニテ五萬六千元ヲセシメタル程ナレハ「ラ」「モ」等ニ對スル支那側支拂ハ少額ナラサルヘク而モ何等效果擧リ居ラストテ行政院及財政部方面ニテハコボシ居ルモノ鮮カラサル由語リ居タリ

支那側一部ノコトナルヘキモ御參考迄

支ヘ轉電セリ

331　昭和9年4月1日　在南京須磨総領事より広田外務大臣宛(電報)

国際協力の具体案に関するモネ構想に対し強く反駁について

南京　4月1日前発
本省　4月1日後着

第二八九號

往電(1)第二七〇號ニ關シ

「モネー」ニ對シ數回ニ亘リ貴電第三五號及第三六號御來示ノ諸點ヲ繰返シ申述ヘタルモ「モ」ハ先般來ノ御話ヲ熟考スルニ肯定スルノ外無キ點多ク殊ニ支那ニハ實際上輿論ナルモノ無ク支那人ノ責任觀念亦薄ク自然何事ニ付ケ「ソリダリテイー」ヲ期待スルコト困難ナルノミナラス治者ト被治者トノ間ニ何等ノ關聯ヲ有セストノ御議論ハ自分等ノ計畫ニモ絶大ノ「インフルーエンス」ヲ及ホシ居リ「(ド)ラモンド」、「アデイス」等ニモ此ノ間ノ實狀ヲ詳細「インフオーム」シ置ケリ唯自分等來支ノ結果ヲ意味アラシムル爲ノミナラス支那ハ此ノ儘ニ放置セハ赤露等トハ異リ完全ニ「アナーキー」ノ支配スル處トナルヘシト懸念セラルル

ニ付人類愛ノ見地ヨリモ悲観材料ナレハ尚更奮闘シテ的確ナル具体案ヲ樹テサルヘカラスト考ヘ居ル次第ナリト前提シ殊ニ左ノ通リ述ヘタリ

一、(イ)支那財政ノ行詰リハ施政不完全ノ結果ナルニ付國際合作ニ依リ行政ニモ刺戟ヲ與フルコトトセハ漸次困難モ緩和セラルヘシ

(ロ)支那各方面ニハ内政ヲ整頓スルノ外救國ノ途無シト考ヘ居ルモノ鮮カラス之カ為外國ノ援助ヲ求メントスル誠意ノ認ムヘキモノアリ一概ニ善意ナラスト一蹴シ難ク

(ハ)又民族意識強キカ故ニ刺戟ヲ與フレハ充分責任ヲ自覺シ得ル可能性アリ

(ニ)[2]従テ國際合作モ「ドーネーション」トハナラス必スヤ資本投下トシテノ「メリツト」アル可ク之ニハ支那人ノ責任ト「イニシアーチブ」ヲ必要トスルコト勿論ナル處自分カ上海、南京、北平等ニ於テ會合セル支那人ニ付判斷スルニ歐米人ト協力スル能力充分ナルノミナラス寧ロ在支歐米人中ニハ如何ニモ不良分子多ケレハ之ヲ優秀者ト入替フルノ必要アリト認メラル

(ホ)支那ノ將來ハ大局ヨリ見レハ相當「ブライト」ニシテ之ニ刺戟ヲ與フレハ充分開發ノ見込アルコト疑無シ而シテ日本ノ實力及權威カ支那開發ノ必要條件ナリトノ點ハ納得行クモ列國ニ取リテモ支那カ重要ナル市場ナル以上合作具体案ニ於テ日本ノミヲ考慮ニ入ルル譯ニハ行カス日本カ實力ニ委セテ支那ノ開發ヲ押切ラントセハ必スヤ國際難關ニ逢着ス可ク又率直ニ申上クルニ日本ニ對シ巨額ノ不確實債務ヲ負フ等ノ所謂支那ノ不(フ)為体(シタラ)ハ日本カ支那ノ民族意識ヲ認メサリシ認識不足ニ起因スルコトモ鮮カラサル點ヲ指摘注意(セサル)可カラス

(ヘ)元來地域尨大ナル支那ハ地方的事情ヲ異ニスル幾多ノ「グループ」ニ分チ得可キヲ以テ支那側要人(陳公博邊リカ)ヨリ支那開發ニ付例ヘハ雲南ニテハ英佛、新彊(疆カ)ニテハ英露又北支ニ於テハ日英米佛白ヲ中心トシテ「リージョナル、クライテリオン」ヲ設ケントスル案出テ自分ノ所謂「クライテリオン」モ之ニ基キ考ヘ付キタル次第ナリ

二、[3]依テ本官ヨリ之等ニ對シ一々反駁ヲ加ヘ殊ニ(ヘ)ニ所謂

「リージョナルクライテリオン」ニ付右ハ disguise サレタル支那分割案トモ云フヘク貴下等ハ支那統一ノ必要ヲ力說シ乍ラ却テ支那ノ混亂狀態ヲ助長スルノ矛盾ヲ敢テ考慮シ居ラスト云フヘク此ノ程度ノ淺薄ナル研究ニテハ折角ノ努力モ遺憾乍ラ作文ヲ殘スノ域ヲ脱セサルヘシト極言シタルニ「モ」ハ實ハ自分モ此ノ點ヲ懸念シタル為事業ニ依リ關係國ヲ分タント考ヘ居ル譯ナリト云ヘルニ付本官ヨリ透サス具体案ニモ依ルヘキモ之亦同様ノ結果トナルヘク事業ニ依リ關係國ヲ甲乙ニセントスルカ如キハ事業其物ヲ破壞スルニ等シク一顧ノ價値無シト報ヒ緊張セル應酬ヲ續ケタル後「モ」モ結局「リージョナルクライテリオン」案ノ實行性乏シキ所以ハ確認シ之ヲ捨ツヘシト約セリ

三、次テ「モ」ヨリ日本ヲ如何ナル事業ニモ參加セシメ又御主張ノ如ク日本ニ lion's share ヲ與フル事トセハ國際合作ニモ不賛成ニハアラサルヘシト問ヘルヲ機會ニ御訓令ノ次第モアリ本官ヨリ「スタビリテイ」無キ現在ノ支那ニ對シテハ國際合作モ施シ様無シト率直ニ述ヘ居ル譯ナルカ夫ニシテモ先ツ具体案ニ付意見ヲ交換スルコト便利ナリトテ「モ」ノ結論内示ヲ迫リタルニ「モ」ハ結論ハ略出來掛テハ居ルモ尚最後ノ結末ヲ得ス又極メテ機微ナル關係モアリ事實「ラ」及「ア」等ニモ示シ居ラサルカ自分等ハ決シテ「アムビシアス」ニアラス先ツ手先ノ最feasible ナル案ヨリ取掛ラントスル次第ニテ貴方段々ノ御話ハアルモ大ナル望ヲ掛ケツツ案ヲ練リツツアリト答ヘタル後御話ヲ綜合スルニ要スルニ日本識者ハ國際合作ニ反對ナルカ少ク共時機尚早ナリトノ意見ノ如キモ然ラハ日本ハ一体何ヲ為サントスル次第ナリヤ若シ日本ニ確乎タル案ニテモアラハ自分等ノ結論共併立セシメテ考フル事妙ナルヘシト思考スルモ單ニ日支間ノ合作以外ニハ反對ストノ趣旨ナラハ日本側主張ハ untenable ナリト云ハサルヲ得スト突込ミ來リ更ニ日本ハ從來雜貨ト小商賣ニ屬スル取引ヲ為シ來ル為排日等ニ苦シメラレタル實狀ナレハ此ノ際思切ツテ支那ノ大宗タル事業例ヘハ鐵道建設船舶路航空路等ノ開拓等ニ喰入ル事可然御賛成ナラハ自分等ノ國際合作計畫ニ眞向ヨリ反對セス寧ロ之ヲ誘導シテ自國ニ有利ニ利用セラルル事賢明ナル方策ニアラスヤト思考スト述ヘ居タリ

支ヘ轉電セリ

332　昭和9年4月1日　在中国有吉公使より広田外務大臣宛（電報）

モネへの我が方対応を歪曲報道し我が方を非難するタス通信報道振りについて

上海　4月1日後発
本省　4月1日後着

第二一一號

三十一日ノ上海「イヴニングポスト」ハ大要左ノ如キ莫斯科三十日發「タス」電報ヲ掲ケタルカ右ハ明日ノ朝刊諸新聞ニモ大々的ニ掲載セラルヘキ見込ナリ莫斯科諸新聞ニ掲載セラレタル上海來電ニ依レハ宋子文ノ招聘ニ依リ支那ニ渡來セル國際的大銀行家ノ一團ト支那政府トノ間ニ進メ居レル商議ハ上海在住外人間ニ大ナル興味ヲ喚起シ居レルカ右銀行團ハ國際借款團ノ爲ニ支那ニ對シ一大借款ヲ與フル問題ヲ研究シツツアルモノナリ右借款計畫ハ米國大統領ト密接ナル關係有ル方面及國際聯盟ノ同意並ニ支持ヲ得居レルモ在支日本外交機關ノ爲强硬ナル抗議ニ會ヒタリ日本ハ借款團ヨリ除外セラレタルニ對シ抗議シ次イテ加入勸誘ヲモ拒絶シタリ日本代表者ハ上海ニ於ケル銀行團ト折衝ノ際本計畫ノ廢棄方ヲ要求シ支那ノ現狀ハ外國資本ヲ投下スルモ效果無シト爲シ他方南京政府ニ對シ日支間ニ鞏固ナル協定成立ヲ條件トシ借款ヲ與フヘキ旨提議シタリ

日本ノ在支外交官ハ極東ニ於ケル秩序維持ノ實力ヲ有スルハ日本ナリトノ理由ニ依リ日本ハ支那ト諸外國間ノ有ラユル問題ニ對シ決定的發言權ヲ有スト明言シ居レルカ斯クノ如キ日本ノ態度ハ支那ニ對シ明ラカニ保護關係ヲ設定セントスルモノトシテ財界ニ對シ大ナル「イリテーション」ヲ起シ居レリ云々

南京、北平、天津、滿、青島、濟南、福州、香港、廣東ニ轉電セリ

333　昭和9年4月1日　在中国有吉公使より広田外務大臣宛（電報）

モネへの我が方対応に関するタス通信報道は事実無根との打消し措置実施について

上海　4月1日前発
本省　4月1日後着

第二一二號

往電第二一一號ニ關シ

當方探査ノ結果「タッス」電報ハ莫斯科來電ニ非スシテ當地「タッス」支社カ一支那銀行家ヨリノ聞込ヲ種ニ作成セルモノナルコト判明セル次第モアリ不取敢當館「スポークスマン」ノ名ヲ以テ「タッス」電中ノ國際的大銀行家團ナルモノカ目下當地ニ滯在シ居ラサルハ周知ノ事實ナルコトヲ指摘シ上海「タイムス」ニ對シ明日ノ同紙朝刊ニ前記「タス」電報ハ全然事實無根ナル旨否認ノ記事ヲ掲ケシムルト同時ニ聯合ヲシテ手配セシメ置キタリ

前電ノ通リ轉電セリ

334　昭和9年4月5日　在南京須磨総領事より広田外務大臣宛（電報）

中国に対する国際協力問題への我が方立場を英国外交官に説明について

南京　4月5日後発
本省　4月5日後着

第二九九號

支發閣下宛電報第二一七號ニ關シ（對支國際合作ト日本ノ態度ニ關スル論說）

四日「ホルマン」來訪シ貴官ト「モネー」トノ話合ヒニ付テハ「カドガン」公使ニ於テ大略「モ」ヨリモ承知シ居ル樣子ナルカ（往電第一九五號㈡右ニ依レハ貴官ヨリ一般的ニ支那ノ狀況ヲ話サレタルニ過キサル趣ナル處別ニ具体的問題ニ付話合ハ無カリシ次第ナリヤト尋ネタルヲ以テ本官ヨリ此ノ機會ニ「ホ」ニモ支那ノ一般狀況ヲ說明シタル上「スタビリテイ」ト善意トヲ缺ク現狀ニ關シ手ノ出シ樣無キ旨率直ニ述ヘ英國モ此ノ點ハ贊成ナラスヤト尋ネタルニ新公使モ此ノ上支那ニ金ヲ注キ込ムコトノ危險ナル所以ヲ充分知悉シ居ル樣子ナリト答ヘ居タリ

支、北平ヘ轉電セリ

支ヨリ上海ヘ轉報アリタシ

335　昭和9年4月(10)日　在南京須磨総領事より広田外務大臣宛(電報)

モネの企画により中国側銀行が外資誘導のためのトラスト設立との情報に関し在中国独国公使と意見交換について

南　京　　発
本　省　4月10日後着

第三二〇號

公[1]使發大臣宛電報第二二八號ニ關シ

一、八日獨逸公使「トラウトマン」ハ本官ヲ招宴シタル際南京ニ於ケル有力ナル獨逸人顧問(「エーニツク」ナル可シ)ヨリ得タル情報ニ依レハ「モネー」等ト相談ノ上愈支那銀行ニ依リ「トラスト」ヲ作上ケタル趣ナリトテ冒頭往電ノ趣旨ヲ述ヘタル上支那ハ之ニ依リ何ヲ爲サントスルモノナリヤト尋ネタルニ付本官ヨリ實ハ先日來ノ「モネー」トノ會談ニ依リ支那側ハ銀行ヲ通シ外資ヲ誘導スルノ案ヲ揑上クヘシトノ印象ヲ受ケ居タルカ御話ノ如クムハ果然之カ具體化シ「トラスト」トナリタル譯ナル可キモ元來何ノ保障モ出シ得サル銀行カ寄集マリタレハトテ新タニ外國ニ安心ヲ與ヘ得サル儀ニテ騙サルルモノモ無カル可シト述ヘタルニ「ト」ハ實ハ自分ハ全然別個ノ情報ヲ有シ居レリ貴官ヨリ「モネー」等ヘ日本ヲ除ク如何ナル國際合作案ニモ反對ナル旨强調セラレタル爲「モ」等ハ對支援助ニ付政府關係ヲ「イヴエード」シ日本ヲシテ文句ノ餘地無カラシムル爲「トラスト」ヲ組立テタル趣ナリ事實世界ニ市場ヲ有スル日本トハ異ナリ八方塞リノ各國ハ競ツテ右「トラスト」ニ賴リ對支投資ヲ行フ事トナル可シト思考セラルト述ヘタルニ付本官ヨリ右ハ全ク見當違ニテ過去ニ於ケル國際義務ヲ措ヒテ問ハサル底○ノ支那銀行カ幾何集マレハトテ全然別個ノ世帶ヲ作リ得ヘキモノニ非ス又御同感ナル可キカ政治的、財政的ニ支那ノ現狀ハ舊態依然タルモノ有リ否寧ロ更ニ險惡ナル行詰ヲ展開シ居ル狀態ナレハ元モ子モ要ラヌト云フナラハ格別苟モ投資スルニハ最不適當ノ時期ト云フ可ク政治上ヨリスルモ斯ル投資ニ對シテハ支那ニ著シキ利害關係ヲ有スル日本トシテ「イクアニミテイー」ノ態度ヲ持シ得サルハ當然ノ事ナリト述ヘタルニ

二、[2]「ト」ハ昵(昵カ)懇ノ間柄ナレハ申上クル次第ナルカ日本カ政

府ト關係無キ私○會社ノ對支援助ニ迄口出シスルハ要ラサルオセツカイニテ又如何ニ邪魔スルモ事實此ノ種投資ニ依ル仕事ハドシドシ運ハレ行クヘク事實日本ト同樣絶大ナル利害關係ヲ有スル英國ト雖現在今少シク實際的ニ打算シテ事態ヲ收拾セント試ミ居ル如ク現ニ本八日「フイツシヤー」ヨリノ報告ニ依レハ英商務參事官「ビール」ハ新公使ニ對シ英支合辦事業ノ促進ヲ進言シタル趣ナリト述ヘタルニ依リ「ビール」ハ本官ノ知ル限リニ於テ斯ル事ヲ考慮シ樣筈無シト酬ヒタルニ「ト」ハ實ハ自分モ相當驚キ居ル次第ナルモ先ツ右ハ間違無キ報告ナリト見ラルルニ付日本モ今少シク事實ニ卽シタル措置ヲ考フルコト然ルヘシト思考セラル殊ニ航空機輸入等純然タル商取引ヲモ「サスペクト」セラルルハ如何ニモ解シ難シト述ヘタルニ付本官ヨリ航空機ハ米國以外貴國ヨリモ多數輸入シ居ル處軍用機ナルト否トヲ問ハス隣國日本トシテハ凡ソ他國ニ依ル「エーヤ、コントロール」ニハ無關心タリ得ス又序ナカラ申上クヘキモ貴國派遣ノ軍事顧問ニ付テモ貴方カ日本ニ於テ餘リ問題ニスルノ要無シト考ヘ居ラルルコト自体カ寧ロ不自然ニテ當方ハ貴方ノ簡單ナル考方ニ付テハ意外ノ感ヲ禁シ得サル次第ナリト率直ニ述ヘタル處「ト」ハ滿洲及臺灣ノ二大策戰地ヲ握リ居ル日本カ左程神經過敏トナルノ必要ハ無カルヘシト遁ケタルカ尚本官ヨリ航空機賣込、顧問派遣等ニ付テハ日本カ大ナル關心ヲ持チ居ルコト充分御了解ノコトナルヘシト再三念ヲ押シ置ケリ

支、北平ヘ轉電セリ

336　昭和9年4月10日　在南京須磨総領事より広田外務大臣宛(電報)

モネの投資窓口機関設立計画につき在中国英国商務参事官と意見交換ならびに同参事官より中国旧債整理に関し日英間に共同動作方提議について

南　京　4月10日後発
本　省　4月10日後着

第三二四號

九[1]日「ビール」ハ本官ヲ來訪シ實ハ新公使ニ經濟政策等ニ付具體案ヲ提出スルノ要モ有リ貴官ト「フランク、トーク」ヲ試ミ日本ノ支那ニ關スル「オブザベーション」ヲ承知シ

度シト思ヒ只今來寧セル次第ナリトテ早朝四時間ニ亘リ懇談セルカ要領左ノ通

一、「ビール」ヨリ最近成立セリトノ噂有ル支那銀行團ハ外資誘導ノ「チヤンネル」トナルヘシトテ往電第三(二〇)?號獨逸公使ト略同樣ノ意見ヲ述ヘタルニ付本官ヨリ例ニ依リ「モネー」等ニ對スルト同樣殊ニ

(一)對支國際協力ニハ日本カ「プリドミナント、シェーアー」ヲ有スヘク

(二)支那ハ先ツ舊債ヨリ整理シ行クコト必要ナルニ拘ラス此ノ誠意無クシテ新タニ金ヲ借入ルルモ結局「ライアビリテイー」ヲ増ス以外支那ニモ得無シ

(三)一方義務ヲ果スノ意思モ實力モ無キ支那ニ於テハ銀行團ノ「セキユリテイー」等問題トナラス

トノ點ヲ高調シタル處「ビ」ハ平生ノ御話モ有リ自分ハ全ク同感ナレハ最近意見ヲ求メラルル毎ニ鐵道、道路等ノ建設ニ關シ支那側ト協同シテ事業ヲ爲スカ如キハ夢ニ過キスト述ヘ居ル譯ナリ唯訓令有リタルニハ非サルモ新公使着任ノ機會ニ何等カ支那ニ對スル具體案ヲ得度心組ナルカ御主張ノ「プリドミナント、シェーアー」ハ結構ナルモ日本ハ一體之ニ相應スル責任ヲモ果スノ覺悟卽チ場合ニ依リテハ支那ノ爲一肌脱クノ決意ヲ有シ居レリヤト尋ネタルニ依リ日本ハ早クヨリ自國ノ運命ヲモ睹(賭カ)シテ支那ノ獨立及向上ヲ扶翼シ來レルモノニテ上海事件ノ如キモ畢竟此ノ責任觀念ノ結果ニ外ナラス「ローヤルテイー」ハ日本ノ生命ナリト應酬シ置ケリ

(欄外記入一)

二、[2]次テ「ビ」ヨリ支那ニ對シ日英兩國ハ略ホ同樣ノ利害關係ヲ有シ之ヲ假ニ双方共四分トセハ米國一分、其ノ他各國ハ全部合セテ殘リ一分程ニ當リ云フニ足ラサルモ唯支那問題ヲ國際問題トシテ取扱フトキハ苟モ關係アル國例ヘハ華盛頓條約關係九ケ國等ハ各對等ニ論議ヲ爲シ得ル譯ナリト述ヘタルニ付本官ヨリ聯盟ノ如キニ於テハ兎モ角支那問題ニ付何モカモ「イークオール、ヴオイス」ハ眞平御免ト云フ可ク英國ノ如キハ此ノ點ヲ充分認(識)スルヲ要スト述ヘタルニ「ビ」ハ貴官ノ言フ所ヲ煎詰メレハ日本ノ協力ナクシテハ支那ニ對シ何事モ出來ス又主義上日本ノ協力ヲ得タリトスルモ現在ハ實際ニ事業ヲ施スノ時機ニアラストノ結論ナル樣ナルカ他國カ右ヲ無視シ

(欄外記入二)

テ今支那ニ投資セハ日本ハ之ヲ「デイスアグリーアブル」

ト思考セラルル次第ナリヤト述ヘタルニ付日本ハ支那ヲ混亂ニ導ク此ノ種投資ハ寧ロ「アンフレンドリー」ナリト見ル可ク貴下ハ一体今回ノ所謂外資誘導ノ「チヤンネル」等ニ付如何ナル意見ヲ具申スル積リナリヤト突込ミタル處「ビ」ハ政府カ此ノ上支那ニ對シ投資ヲ爲サントセハ自分モ反對ス可キカ「キンダースレー」、「アデス」等カ「プライヴエート」ニ例ヘハ Lazard and Co. 等ヲ通シ何カ遣ラントスルニ於テハ如何トモ致シ難カル可シト述ヘタルニ依リソンナ生溫キコトニテハ貴下ノ所謂英國ノ重大ナル利益モフイトナル可ク從來上海ニ於ケル會談ニ依レハ貴下ハ棉麥借款サヘ evasion of consortium ト話シ居レル程ナルカ今回ノ所謂「チヤンネル」ニ依ルコトモ亦實質上「エベーシヨン」トナルニアラスヤト述ヘタルニ其ノ點ハ同感ナリト答ヘタリ

三、[3]「ビ」ハ貴方ノ言フ通リ舊債ニ付支拂ノ目處(メド)ヲ着ケサル限リ英國政府トシテハ手ノ出シ樣無キ譯ニテ例ヘハ鐵道借款ニ付支那ヨリ全体ノ整理方法ヲ申出テサル限リ個別的決濟ハ眉唾モノナリ殊ニ平綏線材料ヲ賣込メル米國關係會社ニ對スル整理方法(往電第二六六號參照)等ハ完全ナル胡麻化シト云フヘシト述ヘ日本ハ本件ニ付如何ナル見解ヲ有スルヤト問ヘルニ付我方モ大体同樣ナルヘシト輕ク應酬シタル處「ビ」ハ然ラハ日英間ニ何等カ「ジヨイント、アクシヨン」ニテモ取リ得サルヤ換言セハ客年十二月二十六日ノ廣田「サイモン」交換覺書ノ精神ヲ支那ニ於テ具体的ニ表示スルノ方法無キヤト尋ネ更ニ序ナカラ最近ノ日米挨拶交換ハ政府間ノ形式的御世辭ノ交換ニ過キサルニ引替ヘ日英兩外相ノ交換覺書ハ謂ハハ永キニ亘ル兩國友好關係カ更ニ今後モ不變ナルヘキヲ表示セルモノナレハ自然之ヲ具体化セシムルノ方法如何等モ考ヘラルル次第ナリト熱心ニ述ヘタル上例ヘハ舊債整理ニ

(欄外記入三)

付日英兩國協同ニ動作ヲ執ラントスル際同方面ニ進ムヘキ了解ヲ遂クルコトハ支那ノ覺醒ヲ促ス上ヨリ有效ナルヘキニ付夫々單獨ニ行動セス協同ノ「フオーミユラー」ヲ見出シ之ニ準據スルコト賢明ノ策ナラスヤトモ思考セラルト述ヘ居タリ

支、北平ヘ轉電セリ

支ヨリ上海ヘ轉報アリタシ

（欄外記入一）
之ハ上海事件以後ハ全然異ルニ至レリ
（欄外記入二）
然リ
（欄外記入三）
不可

337　昭和9年4月10日　在中国有吉公使より広田外務大臣宛（電報）

モネによる外資誘導のための会社設立計画に関し張公権および李銘より同社活動の見通しなど聴取について

上海　4月10日後発
本省　4月10日後着

第二五二號

往電第二二八號ニ關シ

一、十日大村、張公權會談ノ節此ノ際開發公司ノ設立ハ其ノ時機ニ非スト思フカ如何ト尋ネタルニ張ハ自分モ大體右ト同様ノ感ヲ有シ居ルカ本件ハ宋子文ハ經濟委員會ニ於テ具體的ノ仕事ヲ爲シ難キ爲相當焦リ氣味ニテ「モネー」ノ勸誘モアリ乘氣トナリタルモノニシテ（「ライヒマン」ハ全然關係無キ由）宋トノ友情モアリ之ニ參加シタル次第ナルカ宋ニ對シテ此ノ際急ニ歐米ノ援助ヲ得テ仕事ヲスルハ面白カラス差當リ事務所ヲ設ケ少數ノ有能ナル「スタフ」ヲ調ヘルコト位カ關ノ山ナル可シト意見ヲ述ヘ置キタルカ本公司カ性急ニ仕事ニ着手スルカ如キコト無カル可シト述ヘ又大村ノ問ニ對シ鐵道部長ト宋子文トノ關係ヨリ見テ本公司カ鐵道建設ヲ行フカ如キコト無カル可シト語リ居タル趣ナリ（尚當方別ノ聞込ニ依レハ本件ニ付テハ張ヨリモ貝淞孫ノ方熱心ナル趣ナリ）

二、李銘ハ其ノ後大村ノ問ニ對シ自分ハ逃ケ居ルモ義理合上結局自分名義位ニテ少額ノ出資ハ已ムヲ得サル可シト述ヘ尚「モネー」ハ佛國資本家ノ間ニハ信用無ケレハ佛國側ヨリノ援助ハ期待シ難ク又英米ハ當分外國投資ヲ差控ヘ居ル趣ナレハ（英ハ二年間海外投資ヲ禁シ居ル爲英國團匪賠償金擔保ノ外債モ倫敦ニテ募集困難ナル位ニテ米國ハ三年間同様禁止セル趣ナリト説明セル由）之ヨリノ援助モ無カル可ク結局本公司ハ大シタ活動ヲ爲シ得サル可シト述ヘ居タル趣ナリ

北平、南京ヘ轉電セリ

338　昭和9年4月12日　在南京須磨総領事より広田外務大臣宛（電報）

モネの会社設立計画に関連して中国に対する国際協力問題への我が方立場を在中国ベルギー公使に説明について

南京　4月12日前発
本省　4月12日後着

第三三七號

一[1]、十一日白國公使「ギヨーム」本官ヲ來訪シ開發公司成立後大分外國ノ投資カ噂サレ居ルモ白國側ニハ未タ何ノ話モナキ次第ナルカ英米等ニ於テ眞面目ニ之ニ取合フ模樣ナリヤ新聞報道ニ依レハ日本ハ外國投資ニ反對シ居ラルル樣ナレハ若シ右カ事實ナリトセハ「デリケート」ナル關係發生スヘシト思考セラルル處貴見如何ト切出シタルニ付本官ヨリ往電第三二四號「ビール」ニ對スルト同樣ノ趣旨ヲ以テ應酬シ支那ノ現狀ニ於テハ同公司モ龍頭蛇尾ニ終ルノ外ナキ所以ヲ説明シタル處「ギ」ハ自分ハ隴海鐵道、正太鐵道等白國關係鐵道ニ對スル借款整理ヲ目的トシテ豫テ貴官ニモ御話シタル通リ客年夏頃ヨリ支那側ノ注意ヲ喚起シ居ル次第ナルカ支那側ハ[2]利下及期間延長等ヲ漠然ト申出テ來ル事有ルノミニテ謂ハハ「グツド、ワード」ヲ振撒キ居ル範圍ヲ出テス具體的ニハ何物ヲモ得居ラサル有樣ナリ自分トシテモ過去ノ債務ニ付責任ヲ認メサル支那ニ對シ此ノ上新投資ヲ行フヘキ筋合ニ非スト思考シ居レリト述ヘ居タリ

二、又米支條約改訂ニ關シ「ギ」ハ「ジヨンソン」トノ接觸ニ依リ得タル印象ニ依レハ米國務省モ内河航行、沿岸貿易等ノ諸權利ニ付相當ノ讓歩ヲ決心シ居ルモノノ如ク唯治外法權ニ付テハ他國ニ及ホス影響大ナル爲今回ハ思切リタル態度ニ出テサルヘシト思考セラルト述ヘ居タリ

支、北平ヘ轉電セリ

支ヨリ上海ヘ轉報アリタシ

339 昭和9年4月13日 広田外務大臣より在中国有吉公使宛(電報)

モネへの対応指針として中国に対する国際協力問題への我が方対処方針通達について

付記一 四月十二日起草、広田外務大臣より在南京須磨総領事宛電報案
モネへの対処振り訓令

二 四月十二日起草、右電報別電案
中国に対する国際協力を日本が不可とする理由について

本省 4月13日発

第一〇九號

本大臣發南京發(宛カ)往電第三六號ニ關シ

「モネー」等ノ計畫ハ貴官等ノ御努力ニ依リ漸次小規模ノモノトナリ來リ結局彼等ノ期待ニ反シ不成功ニ終ルヘキヤニ認メラルルモ我方ニ於テハ此上共從來ノ方針ヲ一貫遂行スルコト致シ度シ尚本件處置ノ指針トシテ當方ノ意見左ノ通リ

一、支那問題ニ關聯シ帝國ハ列國トハ其ノ主張及立場ヲ異ニシ遂ニ聯盟脱退ヲ餘儀ナクセラレ茲ニ帝國ハ他國カ認ムルト否トニ拘ラス自己ノ東亞ニ於ケル使命ヲ守ル爲メ全力ヲ盡ササルヲ得サルニ至レリ固ヨリ諸列强ニ對シテハ極メテ謙遜的ノ態度ヲ以テ利害ノ調節ヲ計リ親善ヲ是求ムト雖モ東亞ニ於ケル平和秩序ノ維持ハ自己ノ責任ニ於テ單獨ニ之ヲ遂行スルコト當然ノ歸結トナリタル次第ニシテ帝國ハ此ノ使命ヲ全フスルノ決意ヲ有スルモノナリ

二、該使命ヲ果ス爲メ帝國ハ支那ト共ニ東亞ニ於ケル平和維持ノ責任ヲ分チ度意嚮ニシテ從ツテ支那ノ保全、統一及秩序ノ恢復ハ帝國ノ最モ希望スル所ナリ而シテ之カ爲ニハ支那自身ノ自覺及努力ニ俟ツノ外ニ方法ナキコト歴史ノ説明スル所ニシテ帝國ハ右見地ニ基キ支那側ノ日本排斥運動ハ勿論以夷制夷的ノ他國利用策ハ終始一貫之ヲ打破スルニ努メサルヘカラス

三、滿洲上海事件後ノ情勢ニ顧ミ若シ此ノ際列强カ支那ニ對シテ共同動作ヲ執ルコトアラハ右ハ其ノ形カ財政的、技術的其ノ他如何ナル名目ヲ以テスルニ拘ラス必ス政治的意味ヲ包含スルコトトナルヘク其ノ結果ハ直接支那國際管理ノ端ヲ啓キ又ハ分割若ハ勢力範圍設定ノ緒トナルコ

トナシトスルモ支那ノ覺醒及保全ノ爲メ不幸ナル結果ヲ招クノ虞アリ帝國ハ主義トシテ之ニ反對ヲ表セサルヲ得ス

四、尤モ各國カ經濟貿易上ノ見地ヨリ各別ニ支那ト交渉シテ行フ行動カ支那ニ對スル事實上ノ援助トナルモ之カ東亞ノ平和又ハ秩序ノ維持ニ反セサル限リ其ノ任意ノ措置タルヘキハ素ヨリナリ然レ共右カ苟モ東亞ノ平和又ハ秩序ヲ紊ルカ如キ性質ノモノ(例ヘハ軍用飛行機ノ供給又ハ飛行場ノ設置、軍事顧問ノ供給、政治借款等)ナルニ於テハ帝國ハ之ニ反對セサルヲ得ス

五、以上ノ見地ニ基キ現下支那ニ對スル外國側ノ策動ハ共同動作ハ勿論各別ノモノト雖(支那カ依然トシテ外國ノ勢力ニ依リ我方ヲ牽制セムコトヲ夢見ツツアル事情ニモ顧ミ)一應之ヲ破壞スル建前ニテ進ムコト肝要ナリ

就テハ叙上御含ノ上我方ノ目的達成方此ノ上共精々御努力相成度

滿、北平、青島、南京、福州、厦門、廣東及英、米ニ轉電セリ

支ヨリ漢口ヘ、北平ヨリ天津ヘ、青島ヨリ濟南ヘ、廣東ヨリ香港ヘ、英ヨリ土ヲ除ク在歐各大使及壽府ヘ、米ヨリ紐育ニ暗送アリ度

(付記一)

貴電第二五四號、第二八九號、第三二〇號及第三二四號等ニ關シ

本大臣發在支公使宛往電第一〇九號御含ノ上別電第(三字分アキ)號及左記二ノ趣旨ニ依リ「モネー」等ノ啓發方此ノ上共御努力相成度

二、(ママ)貴電第二八九號ニ依レハ「モネー」ハ日本ハ一体何ヲナサムトスル次第ナリヤ日本ニ案アラハ承知シ度シ云々トノ趣旨ヲ述ヘ居レルカ日本ノ主張スル所ハ要スルニ先ツ以テ支那ニ於ケル事態ノ改善少ク共支那カ以夷制夷ノ考ヲ捨テ善意ヲ以テ外國ノ協力ヲ求ムル氣持ニナル樣仕向クルコト肝要ナリ(「モ」ハ支那ノ「アナーキー」化ヲ極端ニ恐怖シ居ルモノノ如キモ支那ハ數世紀以來漫性的「アナーキー」ニテ右「アナーキー」化ナルモノハ歐米人等カ慢然想像スル程恐ルヘキモノニ非ス)而シテ支那ノ現狀カ改善サヘスレハ案ハ如何樣ニモ立ツヘク之ニ反シ此ノ際無理矢理ニ案

ヲ立ツルモソハ作文タルニ過キスト言フニ在リ要スルニ「モ」ノ考ノ根底ニ横ハル重大ナル缺陥ハ目前ノ人類愛ト言フカ如キ安價ナル「センチメンタリズム」ニ依リ此ノ際是カ非テモ案ヲ作ラムトスル點ニ存スル譯ニテ(支那ノ事ハ今少シク遠大ノ目ヲ以テ見ルコトヲ要ス)現ニ「モ」ハ立案ニ焦ル餘リ支那ヲ幾多ノ「グループ」ニ分チ例ヘハ新疆ニテハ英露ヲ又北支ニ於テハ日英米等ヲ中心トシテ「リージョナル、クライテリオン」ヲ設クト言フカ如キコトヲ提唱セムトスルノ愚ヲ敢テシ居レリ(該案ハ貴見ノ如ク disguise サレタル支那分割案又ハ勢力範圍設定案ニシテ結局「モ」モ其ノ不可ナルコトヲ悟レル次第ナリ)

編　注　右電報案は廃案となり、発電されなかった。

(付記二)

一、滿洲上海事件ノ勃發及同事件ニ伴フ日本ト聯盟等トノ折衝ニ顧ミ日本ハ東亞ニ於ケル平和ノ維持ハ東亞ニ於ケル日本ノ權威ト實力ト將又智識トニ依ルノ外ナシトノ認識ヲ愈々强ムルト共ニ其ノ當然ノ歸結トシテ東亞ニ於ケル平和ノ維持ニ對スル自國ノ責任ヲ一層痛切ニ自覺セル次第ナリ卽チ事件ノ以前ト以後トニ依リ日本人ノ心裡ニ重大ナル革新ヲ來セリ而シテ日本ハ右信念ノ爲聯盟脱退ヲモ辭セサリシノミナラス該信念ハ今後トモ日本外交ノ根本義トシテ益々强メラレ深メラレ行クヘキモノニシテ東亞ニ於ケル形勢ノ此ノ大ナル變化ハ苟モ東亞ノ問題ヲ考フルモノノ寸時モ忘ルヘカラサル所ナリ

二、往電第三六號ハ前項ノ信念ヲ基礎トシ對支協力ニ對スル日本ノ根本的見解卽チ支那ノ現狀カ改善セラレサル以前ニ外國側カ生仲(半カ)世話ヲ燒クコトハ無益(場合ニ依リテハ有害)ナリトノ見解ヲ忌憚ナク披歷(瀝カ)シタルモノナルカ右根本的ノ見解ニ加フルニ日本カ國際合作ヲ以テ特ニ不可ナリトナス理由ヲ更ニ敷衍スヘシ卽チ元來國際合作ナルモノハ支那ノ國際管理又ハ分割若ハ勢力範圍設定ノ端緒トナルノ危險性ヲ包藏ス又此ノ點ハ暫ク措クトスルモ滿洲上海事件後ノ情勢ニ於テ所謂國際協力ハ假令技術的、財政的其ノ他如何ナル名目ヲ以テスルモ必然的ニ政治的色彩ヲ帶ヒ來リ其ノ結果種々忌マハシキ紛糾ヲ生スヘク斯ノ如キハ過般滿洲問題ニ關聯シ聯盟ニ於テ極メテ苦キ

經驗ヲ嘗メテ日本ノ堪エ得サル所ナリ

三、各國別ノ對支協力ニ對スル日本ノ態度ハ必スシモ國際合作ニ對スル夫レトハ同シカラス蓋シ支那ノ現狀カ改善セラレサル限リ殊ニ外國ノ援助ニ對スル支那ノ善意カ明カトナラサル以前ニ於ケル外國側ノ協力ハ效果的ナラサルヘシトノ前記日本ノ根本的見解(卽チ往電第三六號)ハ此ノ場合ニ付テモ何等ノ變化ナキモ唯タ支那ニ現實ノ利害ヲ有スル外國カ右利害ニ卽シテ協力ヲ與フルコトハ前項記載ノ如キ國際合作ニ伴フ忌ムヘキ政治的紛糾ヲ釀スノ憂少ナカルヘキヲ以テ該協力カ支那ニ於ケル治安ノ維持ニ對シ障碍トナラサル限リ日本ハ必スシモ反對セス例ヘハ英國カ其ノ借款鐵道等ノ改善ノ爲團匪賠償金ヲ利用シテ支那ニ協力スルカ如キニ對シテハ格別ノ異議ヲ有スルモノニ非ス然レ共政治借款(例ヘハ棉麥借款)ノ如キハ一面支那ノ内亂ヲ助長スルト共ニ他面其ノ以夷制夷的心理ヲ煽動スルノ結果トナルヲ以テ甚タ好マシカラス又日本ハ外國ノ支那ニ對スル武器ノ供給乃至顧問ノ應聘(例ヘハ「フオン、ゼークト」等獨逸軍人ノ應聘)カ支那ノ抗日ヲ刺戟スル結果ヲ招來スルニ於テハ到底之ヲ不問ニ附シ得サルコト勿論ナルノミナラス假令右結果ヲ招來スル虞ナシトスルモ無統制ナル武器ノ供給又ハ顧問ノ應聘ハ支那ノ内亂ヲ助長スルモノトシテ東亞ニ於ケル平和ノ擁護者タル日本ノ反對ヲ招クヘキコト當然ナリ

編　注　右電報案は廃案となり、発電されなかった。

340　昭和9年4月15日　在南京須磨総領事より広田外務大臣宛(電報)

モネの投資窓口機関設立計画の見通しなどに関し陳公博内話について

南　京　4月15日後発
本　省　4月15日後着

第三五一號

本十四日陳公博ト會見セル處陳ハ平生ニ無ク打解ケ實業部ヲ中心トスル支那ト外國トノ關係ニ付忌憚ナク話合ヒ誤解ヲ除去致度シト前提シ種々本官ノ問ニ答ヘタルカ要領左ノ通

一、四銀行ニ依ル投資團成立ニ付テハ今迄ノ所實業部ニ何等

正式ノ通知ナシ實ハ二月初支那銀行界代表者ヨリ千萬元ニテ銀行「シンジケート」ヲ組織シ度シトノ請願アリタルモ三月初旬銀行同志ノ相談纒マラストノ理由ヲ以テ右請願ヲ撤回セル經緯アリ今回成立ヲ傳ヘラルルモノモ實業部ノ關スル限リ未タ確定的ノモノニハアラス事實成立スルモ之ニ依リ外資ヲ誘導スルカ如キコト到底覺束ナカル可シ

二、自分ハ實業部長タリ且汪院長トノ關係アル爲ナルヘキカ山師的外國人ノ來訪スル者中々多ク本年ニ入リテモ其ノ數五十名以上ニ上リ居リ中ニハ知恵古人、波蘭人等モアリ眞シヤカニ對支投資ヲ口ニスルモ身許ヲ洗ヘハ何レモ小會社ノ賣込外交員ニ過キス先般米國公使來訪ノ際自分ヨリ米國政府筋ニテハ對支投資ヲ如何ニ觀測シ居ルヤト質問セル處同公使ハ日支關係ノ見据着カサル限リ對支投資等ハ問題トナラサル可シト判然答ヘ居タルカ右ハ英、佛、獨等ニ於テモ同様ナル可シ

三、「ロジャース」十二日ノ來寧モ投資等トハ何等關係ナシ先般白銀協定批准ニ關聯シ上海支那銀行關係者ヨリ「ルーズベルト」ニ米國ノ銀問題ニ對スル態度決定ヲ迫レル關係モアリ「ロ」ハ實状視察ノ爲支那ニ派遣サレタル者ニテ云ハハ銀問題ニ對スル米國ノ熱心ヲ示ス「ゼスチュアー」タルニ過キス

支、北平ヘ轉電セリ

支ヨリ上海ヘ轉報アリ度シ

341　昭和9年4月18日　在中国有吉公使より広田外務大臣宛(電報)

投資窓口会社としてモネが進める中国建設銀公司の設立が資金面で危ぶまれるとの情報について

上　海　4月18日後発
本　省　4月18日後着

第二九四號

十七日AD情報

中國銀行友人ヨリノ聞込ニ依レハ中國建設銀公司ニ對シ中央銀行ハ四百萬元ノ出資ヲ爲スコトニナリ居ル處(往電第二二八號參照)同銀行條例ニハ此ノ種投資ヲ許ササル規定アリ(中央銀行條例第八條カ)從テ本件出資ハ到底中央政治會議通過ノ見込ナク又其ノ場合ハ中國交通兩銀行ニ於テモ出資ヲ肯セサルニ至ル可キヲ以テ此ノ處本公司モ成立ノ前途ヲ危マレ居ル由張公權ハ宋子文等ニ於テ若シ九一八以前聯盟トノ合作ニ依ル國際投資誘導ヲ主張セサリシナランニハ滿洲事變ハ起ラサリシナル可シ然ルニ性懲モナク今後モ宋等カ聯盟トノ合作ノ迷夢ヲ醒マササルニ於テハ日本ノ對支態度ヲ益々硬化セシメ如何ナル不幸發生スルヤモ計ラレストノ見地ヨリ本公司ノ設立ニ對シテハ極メテ消極的態度ヲ取リ居ル趣ナリ(張カ餘リ積極的ナラサルコト往電第二二八號及第二五二號ノ通ナルカ其ノ動機カ前記ノ如ク明瞭ナルヤ否ヤハ問題ナルモ不取敢)

北平、南京ニ轉電セリ

342　昭和9年4月24日　在南京須磨総領事より広田外務大臣宛(電報)

モネより国際協力の具体案内示について

別　電　四月二十四日発在南京須磨総領事より広田外務大臣宛第三八八号

右具体案

南　京　4月24日後発
本　省　4月24日後着

第三八七號

往電第三〇八號(ママ)ニ關シ[1]

十六日「モネー」香港ヨリ歸滬シタルニ付廿日本官上海ニ出張ノ上廿一日ヨリ廿三日迄三日ニ亘リ會談セリ要領左ノ通

一、「モ」ヨリ自分ハ約二週間ノ香港滯在中「ジャーデン、マテイソン」社ノ有スル種々ナル材料ニ基キ鐵道、船舶等ノ調査ヲ進メ又廣東ニモ赴ク筈ナリシ處支那側特ニ宋子文ノ大ナル手違ニ依リ自分ノ第一案タリシ銀行「コーポレーション」問題漏洩シ而モ中央銀行カ本「コーポレーション」ニ參加不賛成ナル事迄言觸ラサレ事態カ豫想セサル程度ニ展開シタル爲廣東行ヲ取止メテ急遽歸滬シタル次第ナルカ豫テヨリノ約ニ從ヒ大体纒マリタル結果ニ付御相談スヘシト前提シ別電第三八八號ノ如キ案ヲ語リ(未タ文書ノ形トナリ居ラサルニ付「コピー」等モ差上ケラレスト言ヘリ)右ハ今ノ處自分限リノ案ニテ未タ宋子文ニモ内示シ居ラサル點アル程ナレハ絶對ニ貴官限リ御

含ミ置カレ度シト念ヲ押シ又第二階段ニ付テハ更ニ一ケ月支那ニ滞在ノ上詳細具体案ヲ作成シ度考ヘナルモ第一階段ノ「コーポレーション」ニ付テハ「ラモント」、「アデイス」ニ内報シ置キタルカ廿二日「ア」ヨリ右ハ支那開發ノ「プロパー、ライン」ナリトノ返電アリ「ラ」モ大体同様意見ナルヘシト察セラルト述ヘタリ

一、(三、カ)[2]依テ本官ヨリ累次貴電ノ御趣旨ヲ体シ一々批評ヲ試ミタルカ殊ニ(イ)先ツ資本主義ヲ支那ニ植付ケントスルカ如キハ根本ニ於テ支那ノ diagnosis ヲ誤レルモノタルノミナラス元來資本主義ハ自然生育ニ待ツヘキモノニシテ植付ケラルルモノニ非ス(ロ)又第三階段ニ於テ舊債務ト新投資トノ調整ヲ論シ居ラルルモ舊債務整理コソ總テノ前提條件ニシテ支那カ舊債務ニ忠實ナルニ至リテ初メテ建設ニモ善意ナリト推定シ得ルニ非スヤ假ニ貴案ヲ容ルルトスルモ先ツ第三階段ヨリ始ムヘキモノニシテ忌憚ナク批評スルニ全ク本末ヲ顚倒セルモノト言フヘク右ハ現ニ本月十四日張公權カ早急ニ千萬乃至二千萬位ニテ先ツ舊債償還ニ色ヲ付ケサレハ外國資本誘導ハ全然不可能ナリト演說シ居ルニ徵シテモ明カナリ(ハ)右調整機關トシテ九國條約ノ例ニ倣ヒ關係國ノ相談機關ニテモ設クルカノ如キ議論ト見受ケラルル處同條約カ元來事實上運用シ得ヘカラサル規定ヲ含ミ居リ又[3]同條約カ支那ヲ「スポイル」シタルコト實證セラレタル今日利害關係ノ範圍及性質ヲ異ニスル各國ニ「イコール、ポート」ヲ與フルカ如キ仕組ハ問題ト成ラス又(ニ)「コーポレイション」ハ支那自体ノ自覺及責任ニ依リ形成セラル可シトスルモ累次說明シタル通リ支那人ノ責任觀念等ハ單ナル figuration ニ過キス右「コーポレイション」ハ法人格ヲ有シ得ヘシトスルモ結局支那四銀行ノ有スル缺點ノミヲ遺憾無ク繼承シ政治家ノ利用ニ適スル粘○土○ノ足ヲ有スル巨大像○ニ終ルノ外無カル可シ現ニ外國人方面ニ最モ信用アル交通銀行サヘ日本ノ債權ヲ踏倒シ居ルニ非スヤ又假リニ「コーポレイション」協定成立スルモ千萬元ノ所謂資本ハ結局「ノミナル」出資ニ過キサル可ク之ヲ以テ外國資本ヲ誘導シ得ルモノト考フルハ大ナル見當違ヒト謂ハサル可カラスト極論シタルニ

三、「モ」ハ一々重要ナル「コメント」ナレハ再考致度話ヲ一應打切リ度シト述ヘ第一回會見ヲ終レリ

支ヘ轉電セリ

（別　電）

南京　4月24日後発
本省　4月24日後着

（欄外記入）

第三八八號

一、[1]支那ハ此ノ儘ノ状態ニテハ共産化スルカ或ハ無政府化スルノ外無キニ付先ツ歐米諸國ニ於ケル所謂資本主義ヲ植付ケ政治ヨリ離レ經濟ニ基礎ヲ置キタル「キヤピタリステイツク、リンク、オブ、インテレスツ」ヲ形成スルコト支那開發ノ前提要件ナル處右開發モ支那ノ自覺及責任ノ上ニ於テ行ハル可キコト必要ニテ一八八〇年ヨリ一九〇七、八年頃ニ至ル米國ハ之カ好適例ヲ示スモノナリ右期間ハ米國ノ借金時代ニテ「モルガン」會社ヲシテ一方米國政府財政々策ノ樞機ニ參與セシムルト同時ニ他方外資誘導ノ保障タラシメタル次第ナルカ支那ニ付テモ之ヲ參酌スルコト然ル可シ

二、以上ノ見地ヨリ公平ナル第三者カ支那ノ開發ヲ計ルニハ先ツ三階段ヲ經ルヲ要ス

(イ)第一(階)段ハ外資誘導ノ「チヤンネル」トシテ又資本主義的發展ノ一歩トシテ有力支那銀行ノ「コーポレーション」ヲ先ツ開設スルニアリ(第二、第三階段ノ研究終了後所謂銀公司トシテ知ラルル右「コーポレーション」ニ付發表スル積リナリシカ宋子文ハ西北旅行前ニ決定シ度シトテ豫定ニ反シ事前ニ漏ラシタル次第ナリ宋ハ自ラ「コーポレーション」ノ主腦者トナリ度所存ナルカ蔣介石ハ寧ロ孔祥熙ヲ選ハントシ居ルヲ看取シ早手廻シノ措置ニ出テタルモノナル可シ)

(ロ)[2]第二階級(段カ)トシテハ支那開發ニ關スル各企業(「プロジエクツ」)ノ調整ナルカ右ニ付テハ企業ノ「クライテリオン」ニ依ル「グループ」ヲ定メ參加國ヲ異ニスルヲ至當ト思考スル處先ツ右企業ノ內容ヲ決定スルコト必要ナレハ自分ハ密ニ材料ヲ蒐集研究シタル結果

(一)鐵道
(二)船運
(三)「モータライゼイション」
(四)「カナライゼイション」
(五)航空

等ノ諸項目ニ付研究ヲ進ムルコトトセリ然ルニ何シロ支那ニ於テハ複雑多岐ナル列國ノ利益錯綜シ居ル爲實ハ何事モ簡單ニ行カサルコト日本側ノ言フ通ナルニ氣付キ的確ナル案ノ作成ハ思切ルノ外無シトサヘ考ヘ始メタル次第ナルカ假ニ當座ノ考ヲ述フレハ

(一)ニ付テハ原則トシテ現在ノ組合セニ準據スルコトトシ唯新設鐵道ニ對スル投資ハ各國ノ自由競爭ニ委スルコト

(二)ニ付テハ大體一九三一年迄ノ船舶統計ニ依ルノ外無キモ北支ハ先ツ日本ノ勢力範圍ト爲スヘク揚子江流域及南支ハ英國ニ多少ノ讓歩ヲ附シテ大體日英對等ノ開發ニ委スヘシ蓋シ一九三一年ノ廣東ニ於ケル船舶出入統計ニ照スモ英國ノ約三百萬噸ニ對シ日本ハ二十萬噸ニモ足ラサル次第ナレハ以上ノ結論ハ無理無カルヘシ實ハ英國船舶業者ヲシテ招商局ト合同經營ヲ行ハシムル案モ香港方面ニテ主張セラレ居タルカ達成ノ見込無シト思ヒ「デイスカレッジ」シ置キタリ

(三)[3]ハ道路開設ト其ノ上ヲ走ル自動車トノ二項ニ細別シ得ルモ前者ハ外國投資ノ目的物トナラサル故ニ自動車ノ大量製産ニ苦ミ居ル米、伊等カ喰込ムコトトナルヘシ

(四)ハ今ノ處殆ト問題トナラサルモ宋子文カ力ヲ入レ居ル關係モアリ一項目トシテ研究ヲ進メントセリ

(五)ハ最モ重要事項ナルモ國際資本ノ目的トシテハ不適當ナルヲ以テ「ドロップ」シ度シト考ヘ居レリ尤モ鐵道ニ付テハ何トカ物ニナル案ヲ作リ度キ心組ナリ

三、茲ニ問題トナルヘキハ支那ノ莫大ナル舊債務ニテ新投資ニ當リ仝時ニ舊債務ノ淸算ヲ爲スヘキ委員會樣ノモノニテモ設クルコト必要ナルカ之ニハ幾多ノ難點モアルヘキニ依リ結局關係國債權者會議位ヲ試ミルコト可然シト思考セラル

支ヘ轉電セリ

(欄外記入)

本案ハ亜局ニテ充分考究ノ上態度決定ノコト(従来ノ訓令参照)

〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰

343　昭和9年4月25日　在南京須磨総領事より広田外務大臣宛(電報)

外資誘導のための会社設立計画をめぐるモネとの会談について

南　京　4月25日後発
本　省　4月25日後着

第三九五號

往[1]電第三八七號ニ關シ

二十三日ノ第二回會見ハ四時間ニ及ヒタルカ先ツ「モ」ヨリ本官ノ批評ヲ一々含味シタル處全然同感スルノ外ナク自然「コーポレイション」ノ性質ヲ相當變化セシムルノ要アルヲ發(見)セリトテ極メテ率直ニ我方ノ主張ヲ認メタルニ付本官ヨリ

一、然ラハ各國カ其ノ有スル債務ニ付テ先ツ個別的整理ヲ行ヒ右一段落着キタル後所謂「コーポレイション」ニ依リ外資ヲ誘導セントスル案ナリヤ(ト)突込ミタル處「モ」ハ之ヲ肯定シタルニ付本官ヨリ然ラハ折角ノ「コーポレイション」ハ結局形ノミニテ遂ニ其ノ效能ヲ發揮シ得サル譯ナラスヤ何トナレハ個別的整理ノ後ニハ當然個別的投資ノ問題カ直接支那側トノ間ニ話合ハル可キヲ以テナリト述ヘタルニ

[2]「モ」ハ右モ肯定シ從來外國資本ノミニ依リ支那企業ニ當リ居タル爲今日ノ如ク債權者、債務者トモ動キノ取レサル行詰ニ逢著セル次第ナルヲ以テ今後ハ外國資本ト平行シテ支那資本ヲモ投セシムル仕組トスルノ必要アリ茲ニ「コーポレイション」ノ職能ヲ期待スル譯ニテ外國資本ハ必ス右「コーポレイション」ヲ通シテ投セラル可シト謂フニハ非スト答ヘタルニ付

三、本官ヨリ御話ノ如クハ債務整理ニ時ヲ移シ結局「コーポレイション」ノ成立ヲ見サルコトアル可ク又假リニ成立ストスルモ別段外資誘導ノ「チヤンネル」トハナラサル可シト率直ニ指摘シタル處「モ」ハ貴見ノ通ナル可キモ兎モ角右ハ支那今後ノ開發上有用ナル機關トナル可キヲ疑ハス但シ所謂第二階段ノ諸企業ニ付テハ篤ト研究ヲ重ネ又之カ實行ニ當リテハ急クコト無ク確實ナル目當(メド)着キ次第始ムルヲ要ス自分ハ山師的ノ仕事ヲ爲ス考無ク又徒ニ「グランデイオース」ノ案ヲ作ル積リ無シ總テ打明ケ申上クル次第ナルカ「モルガン」關係會社ハ對支投資ニ

相當ノ利器ニナリ居ルヤノ印象アリト述ヘ居タリ尚「モ」ハ會見中屢宋子文ハ支那ノ實狀ヲ辨ヘサル點多シト述懷シ居タリ
支ヘ轉電セリ

〰〰〰〰〰〰〰〰

344 昭和9年5月7日
広田外務大臣より 在英国松平大使、在米国斎藤大使、在中国堀内臨時代理公使他宛（電報）

モネと行動をともにする英国人ドラモンドの活動には政治性はないなど在本邦英国代理大使より重光次官に弁明について

本　省　5月7日発

合第五二二號
英國代理大使七日重光次官ヲ來訪ノ際最近支那滯在中ノ「ドラモンド」（「サー・エリック・ドラモンド」）ノ息客年支發本大臣宛電報第七四三號（英米宛合第二一七三號(欠カ)參照）ヨリ私的書面ニ接シタリトテ「ド」等ガ支那ニ於テ爲シ居ルコトハ政治ニハ觸レサル由ニテ例ノ銀公司ノ如キモ支那ノ會社ニ外ナラス日本ヲ無視スルカ如キコトハ無キ趣ナリト縷々陳辯シ居リタリ之ニ對シ次官ハ右内報ヲ謝スルト共ニ「ド」「モネー」等カ支那ニ於テ技術的援助ト稱シテ頻リニ何等カ計畫ヲ進メ居ルコトハ承知シ居レルカ滿洲問題直後日本カ聯盟ニ對シ困難ナル立場ニ立チタル際聯盟カ技術援助ノ名ノ下ニ支那ニ派遣セル「ライヒマン」カ恰モ支那ノ外務大臣ナルカノ如ク活動セルコトハ事實ナル處支那ニ於テハ技術上ノコトト政治上ノコトトノ區別判然セス支那人ハ常ニ自分ノ政治上ノ立場ニスヘテヲ利用セントスル癖アリ此ノ支那ニ於ケル特殊ノ事態ヨリ見テ「ドラモンド」等ノ支那ニ於ケル仕事ニ關シテハ我々ハ大ナル misgivings ヲ以テ carefully ニ watch シ居ル次第ナル旨告ケ置キタル趣ナリ
御參考迄
本電宛先　英、米、支、滿、北平、南京
英ヨリ土ヲ除ク在歐各大使及壽府へ暗送アリ度
米ヨリ紐育へ暗送アリ度

〰〰〰〰〰〰〰〰

345 昭和9年5月7日
在南京須磨総領事より 広田外務大臣宛（電報）

外資誘導のための会社設立を断念するよう我が方主張を改めてモネに説示について

南　京　5月7日後発
本　省　5月7日後着

第四四一號
往電[(1)]第三八七號ニ關シ
本官上海ニ出張シ六日「モネー」ト會談セルカ要領左ノ通
一、「モ」ヨリ「コーポレーション」ハ諸般ノ準備ヲ整ヘタルモ中國銀行カ銀行條例ニ拘束セラレテ今回ノ出資ヲ不便トスル事情有リタル爲蔣介石ニモ此ノ點ヲ相談ノ要有リ二十九、三十ノ兩日廬山ニ於テ孔祥煕ト共ニ（孔ハ足ヲ傷メ病臥シ活動出來サリシ由）「コーポレーション」成立ノ經緯ヲ報告シタルニ蔣ニ於テモ何等反對無ク愈宋子文西北旅行ヨリ歸來ヲ待チ成立セシムル手筈トナレリ一方主ナル外國公使館側ニモ誤解無キ樣内々申入ルルヲ得策ト考ヘ「ドラモンド」ヲ三十日赴平セシメ「カドガン」及「オプノー」ニ又自分ヨリハ廬山ニ於テ「ジョンソン」ニ夫々大体内報シ（「モ」ハ右ハ全ク概略ニテ本官ニ内報セルモノノ一半ニ過キサル旨附言シ居タリ）感想ヲ尋ネタル處孰レモ賛同ノ模樣ニテ殊ニ「カ」ハ相當熱心ニ聽取シ居タル由ナリ
二、本「コーポレーション」ノ組織ニ關シ蔣介石ヨリ殊ニ人ノ組合セハ極メテ重要ナリトノ注意モ有リ尚愼重研究中ナルカ結局ハ宋、孔其ノ他各銀行ノ經理等ヲ以テ組織シ何人ノ「インストルメント」トモナラサルヘキヲ主眼トシ居レリ
三、「プロジエクツ」ニ關シテハ其ノ後モ研究ヲ重ネ見タルカ例ヘハ鐵道等ニ關シ原則ヲ定ムルモ實行ニ當ツテハ思ハサル支障ヲ來スヘキニ想到シ結局先ツ「コーポレーション」ノ組織ニ專念シ具体的ノ場合ニ應シテ適宜按配シ行ク樣取計フノ外無シト考ヘ始メタリト述ベタル上日本ノ參加無クシテハ成功ヲ期スル事覺束無キ次第ハ自分モ熟知シ居レハ日本ノ政策ニ付確カナル處ヲ承リ度ト申出有リタルニ付
四、[(2)]本官ヨリ日本側ノ意嚮ハ從來述ヘタル處ヨリ當然歸納シ得可キモ今一應念ヲ押シ度キハ(イ)複雜ナル債務整理ト離

レテ「コーポレーション」ノ活動アリ得サルコト豫テ强調シ置キタル通リナレハ(冒頭往電參照)何等債權ヲ有セサル和蘭「ポルトガル」等カ出資スルナラハ格別支那ト關係アル諸國ニ依ル投資ハ絶望ナリ(ロ)「コーポレイション」カ取扱フ「プロジエクツ」ハ聯盟ノ對支技術合作ト競合シ結局ハ其ノ「デスガイス」ニ終ルノ外無シ(ハ)「コーポレイション」ハ現存スル借款團ト抵觸スル場合無キヤ等其ノ成立ニ依リ國際問題ヲ惹起スルノ可能性アル點ナリ又更ニ支那内部ニ依リテ見ルモ(A)本計畫ハ支那人ニ責任觀念アルコトヲ假定シ居ル點(B)「コーポレイション」ヲ以テ支那ニ於ケル純粹ノ經濟機關タラシメムトスル點(C)支那ハ本年度第一期間(一月乃至四月)ノ輸出入貿易量ニ於テ既ニ二億元ノ大減額ヲ示シ居リ此ノ儘ニテハ昨年度ニ比シテ五割減トモナル可ク完全ニ破産狀態ニアルコトヲ證明シ居ルニ拘ラス更ニ「コーポレイション」ニ依リ資金ヲ吸收セントスルカ如キハ無謀トモ云フ可シト力説シタル處

五、「モ」ハ「ドラモンド」「マゾー」ヲモ引入レ交々本官ノ質疑ニ對シ(イ)「コーポレイション」夫レ自体債務整理ヲ行フ(ロ)[3]聯盟トハ無關係ナリト漠然ト答ヘ(ハ)ニ付テハ成程御懸念ノ通複雑ナル關係ヲ生ス可ク此ノ點未タ充分ノ研究ハ積ミ居ラサルモ當座ノ考ヲ述フルニ借款團問題ハ「コーポレーション」ノ成立無クモ困難ナル問題トシテ現存スト窮餘ノ答ヲ爲シ(a)及(b)ニ付テハ現實ノ出資ヲ爲スコトトナレハ之ニ伴ヒ關係者モ責任ヲ痛感スル一方政治的波紋ニモ超然タリ得可シト想像論ヲ述ヘ(c)ハ之ヲ認メサルヲ得サルモ事實支那人ノ殊ニ上海廣東等ニ於テ有スル投資力ハ相當大ニシテ Remer ノ「支那ニ於ケル外國投資」ニ依ルモ三億弗位ハアル見込ナリト答ヘタル上要スルニ「コーポレイション」ノ成立ハ國際關係ヲ惡化セシメサルノミカ之ヲ善導スルコトトモナル可ク two industrialists never agree unless a banker stands against them ト米國人カ云フハ其ノ通ニテ日本側モ右事情ヲ諒解ノ上是非共熱意ヲ以テ參加セラルル様致度ト述ヘタルニ付

六、本官ヨリ貴下等ノ言ハ自分ノ質疑ニ對スル答トハナリ居ラス寧ロ自信無キ爲自問自答シ居ルニ似タリト應酬シタル處「モ」ハ兎モ角本「コーポレイション」設置ハ自分等研究ノ Chief plank ナレハ日本側トシテモ充分考慮アリタシト繰返シ述ヘ居タリ

支ヘ轉電セリ

346　昭和9年5月(10)日　在南京須磨総領事より広田外務大臣宛(電報)

モネの会社設立計画に対する我が方立場を在中国米国公使に説明について

南京　発
本　省　5月10日後着

第四六六號

九日「ジョンソン」公使本官ヲ來訪シ種々會談ノ際「ジョ」ヨリ所謂「コーポレイション」設立問題ニ付テハ日本側カ最モ深キ關係ヲ有シ居ル次第ニテ貴官ニ於テモ種々各方面トノ折衝ニ當リ居ラルル由新聞ニ依リ承知致シ居ル處(六日ノ上海大晩報七日ノ「チヤイナ、プレス」報道)眞相如何ト尋ネタルニ付本官ヨリ往電第四四一號(四)ノ諸點ヲ擧ケテ我方立場ヲ説明シタル處「ジョ」ハ誠ニ御尤ニテ事實米國ニ於テモ此ノ種有リ來リノ「シンヂケイト」ニ誘惑セラルルモノナカル可シ「ロジャース」カ本問題ニ付打合ノ爲廬山ニ赴キタリトノ噂モ全然無根ナルコト現ニ「ロ」カ目下香港滯在中ナルニ拘ラス右カ依然喧傳セラルルニ依リテモ明カナリト内話シ居タリ

支ヘ轉電セリ

347　昭和9年5月12日　在ニュー・ヨーク沢田総領事より広田外務大臣宛(電報)

ライヒマンの米国での活動およびモネの中国開発計画への見通しなどに関する米国有力実業家の談話情報について

別　電　五月十二日発在ニュー・ヨーク沢田総領事より広田外務大臣宛第六七号

右情報

ニュー・ヨーク　5月12日前発
本　省　5月13日前着

第六六號

先月末「ライヒマン」當地ニ着キタルニ依リ其ノ行動注視方「デーリー、ニュース」ノWright ニ依頼シ置キタル處今般「ライト」ヨリ「クーン、ロエブ」商會ノ「パートナー」タルCline Walker「ナショナル、シテイー」銀行ノBlair副頭取及其ノ極東關係擔當者Holmanトノ會談ノ結果別電第六七號ノ通リ報告シ來レリ御參考迄
別電ト共ニ米、英ヘ轉電セリ
英ヨリ佛、壽府ヘ轉電アリタシ

（別　電）

ニューヨーク　5月12日後発
本　　省　5月13日前着

第六七號

「ウオーカー」ハ「モネ」「ライヒマン」等ノ支那開發計畫ニ對スル米國側支持者ノ雄タルモノニテ「ラ」ト屢會談「ラ」ハ當地ニテハ「ラモン」(ママ)ノ外「ウオ」ノ斡旋ニテ「ナショナル、シテイ」銀行頭取「レントチュラー」ヲ始メ二、三銀行家ト會談セルモ現在ノ所「ラ」ノ計畫ヲ支持スル者殆ト無キ模様ニテ「ブレイア」ハ外國債カ總テ不評判ナル今日米國人カ態々支那ノ國債ニ應募スルカ如キハ信シ得ストテ「ウオーカー」ノ膽煎ヲ一笑ニ附シ居リ又「ホルマン」ハ支那鐵道公債カ不拂ノ狀態ニアルヲ以テ「ジョンソン」法ニ依リタル借款供與ハ不法トナルヤモ知レスト語レリ又「ウオ」自身モ最初ヨリ本計畫カ容易ニ成功スルモノトハ信シ居ラス只茲二、三年內ニ外國債ニ對スル民心ノ變化アルヘキヲ當込ミ其ノ際「クーン、ロエブ」カ公債ノ賣出シヲ一儲ケセンカ為今日ヨリ出來ル丈ノ援助ヲ與ヘツツアルモノト思ハル
尙「チャイニーズ、インターナショナル、コウポレイション」ニ關スル「ウオ」ノ觀測左ノ通
同公司ハ支那ノ一種ノ超政府即チ支那政治家軍閥ノ干渉ノ外ニ置キ從テ外國ノ支那ニ對スル信用ニ缺クヘカラサル「オウソリテイ」ノ繼續ヲ保障セラレ居ル支那ノ商業政府トナルヘシ支那銀行家先ツ相當ノ出資ヲ為シタル後外國銀行モ招請セラルヘキモ「コントロウル」スルコトハ許サレサルヘシ又「デレクター」ノ大多數ハ支那人トシ外國人ハ極少數ノ「デレクター」ノ外數名「マネージャー」トナル外國銀行ハ餘リ深入リセス諮問委員會（借款ヲ「コントロウル」スル為實際上ノ權力ヲ有ス）ニ加ハル丈ニテ滿足スヘク米國銀行家ハ感情的理由ヨリ又發言權留保ノ為參加スヘシ若シ一千萬弗ノ拂込資本金ニテ開業シ多少トモ利益ヲ見レハ右計畫ニ乘出ス自信ヲ得例ヘハ支那ノ鐵道建設ニ付同公司カ一千萬弗ノ鐵道公債ヲ保證シ之ヲ外國ニテ賣出スカ如キコトモ可能トナルヘシ尤モ外國ニ對スル一般ノ氣受良カラサル今日米國ニテハ賣出サス佛英白等今尙外國債ヲ信用スル國ニ於テ賣出シ之ニ成功セハ米國人モ氣ヲ換ヘ其ノ後ノ募債ニ應スルモノ出テ來ルヘシ云々

348　昭和9年5月12日　在ニューヨーク沢田総領事より広田外務大臣宛（電報）

モネの会社設立計画に対する対中国四国借款団ラモント米国代表の所見聴取について

ニューヨーク　5月12日後発
本　　省　5月13日前着

第六八號

十一日[1]「ラモント」ヲ往訪シ
先般富田財務官ノ宴會ノ席ニテ御目ニ掛リシトキ「ソールター」カ支那ノ前途ニ付悲觀的ノ話ヲ為シ居リタル旨又ハ日本政府ニ於テ「モネー」等ノ行動ヲ餘リ眞面目ニ考ヘ過キル傾向アル旨語ラレタルヲ聞キ自分ハ貴下ニ於テモ「モ」等ノ所言ヲ眞面目ニ取リ居ラサルモノトノ印象ヲ得居リタル處其ノ後我方出先ヨリノ情報ニ依レハ「モネー」ハ其ノ後復興銀行案等ニ付英米關係者側ノ承認ヲ得居ルカノ如ク仄カシ居ル樣子ナルカ事實斯ルコトアリヤ先ノ御話ト違フカ故ニ御尋ネスル次第ナリト述ヘタルニ「ラ」ハ丁度昨年今頃「モ」カ初メテ支那復興ノ為ノ「コーポレーション」案ヲ提示シタルトキ自分ハ
(一)支那カ舊債務ノ整理ニ付何等カノ途ヲ講スルコト
(二)日支間ノ政治的確執ヲ「コンポーズ」スルヲ先決條件トシ此ノ要件充タサレサル限リ話ニ乘ルヲ得ス
ト述ヘ其ノ後宋子文ニモ之ヲ話シタルカ自分ノ此ノ態度ハ今日ニ於テモ變更シ居ラス今回ノ「モネー」銀行案ニ付テハ「ライヒマン」ヨリ聞ク所ニ依レハ「モ」ハ逐一須磨總領事ニ打明ケ居ル由ナルカ自分ノ所ニハ此ノ簡單ナル電信來リタルノミナリ之ニ依レハ（其ノ一節ヲ讀ミツツ）彼ノ銀行案ハ

一、純粋ニ支那銀行若ハ支那側ノ出資ノミニ依ル「ローカル、コンソーシアム」ニシテ
二、右銀行ニハ外國側ノ参加ヲモ「インバイト」シ得ルコト及
三、其ノ場合外國側ハ「イークオール、フツテイング」ニ置カルルコト

カ其ノ特徴ト解セラルル處自分等ハ未タ「インバイト」セラレス從テ之ヲ承認スル等ノ問題起ラサル次第ナリト述ヘ若シ勸誘シ來ラハ之ヲ考慮セラルルヤトノ問ニ對シテハ「ラ」ハ現在ノ状況ニテハ考慮シ得スト答ヘタリ

依[2]テ本官ハ支那ニ對スル無統制ナル財政援助ハ其ノ目的ヲ達セサルノミナラス野心政治家等ノ懐ヲ肥シテ黨爭ヲ助長スル結果トナルノミナルニ鑑ミ日本側ノ極力反對シ居ル次第ハ豫テ御承知ノ通ナレハ今後「モネー」等カ鐵道建設道路開設等ノ事業ノ利益ヲ吹聽シテ誘ヒヲ掛ケ來ルモ之ニ曳カサレサル樣致度若シ斯ル事業ヲ考慮セラルル場合豫メ一言御知セ戴クヲ得ハ幸ナリト述ヘタルニ「ラ」ハ自分ハ日本側ニ對シテハ總テヲ話シ來リタルカ今後モ變ルコトナシト答ヘタリ

尚十日鈴木大藏事務官カ四月十一日ノ時事新報ニ「モルガン」商會カ對支投資ニ乘氣トナリ居ル旨ノ記事アルヲ提示シテ「ラ」ヲ訪ネタル際ニモ大体本官ニ對スルト同樣ノ回答ヲ爲シタル趣ナリ

米、英ヘ轉電セリ

英ヨリ佛、壽府ヘ轉電アリタシ

349　クーン・ローブ商会はモネの外資誘導計画には応じない旨同社幹部内話について

昭和9年5月12日　在ニュー・ヨーク沢田総領事より広田外務大臣宛(電報)

ニュー・ヨーク　5月12日後発
本　　　省　5月13日前着

第六九號

往電第六六號ニ關シ

十一日「クーン、ローブ」ノ「ストラウス」ニ會見シ貴方ト宋子文トノ關係ハ其後立消エトナリタルモノト聞キ居リタルニ最近聞ク所ニ依レハ貴方ノ「ウオーカー」ハ支那ノ復興銀行設立ニ付「ライヒマン」ト話シ合ヒタル趣ナ

ル處右ハ「クーン、ローブ」ニ於テ支那投資ニ「インテレスト」ヲ持チ初メタル次第ナリヤト尋ネタルニ「ストラウス」ハ支那ノ海外買付代理ノ問題ハ其後宋子文ニ於テ約定ヲ履行セサル爲「ドロツプ」シ居レリ「ウオーカー」ハ「モネー」ノ親友ニテ其關係ニテ昨年宋トノ話モ起リタル次第ナルカ「クーン、ローブ」トシテハ日本ヲ出抜キテ支那ト關係ヲ作ルヲ欲セス從テ當時事前ニ日本側ノ意嚮ヲ確メタルハ御承知ノ通ナリ今回モ「ウオーカー」ハ「モネー」ノ傳言ニ依リ「ライヒマン」ト午餐ヲ共ニシ「モルガン」ノ「パートナー」「アンダーソン」モ同席ノ上ニテ支那ノ復興銀行(「ス」ハ「シルバー、バンク」ト言ヒ居レリ)ノ話出テタル趣ナルカ「ウオーカー」ハ昨年一月初メテ「クーン、ローブ」ニ參加シタル「ジュニアー、パートナー」ニシテ彼ニ依リテ動カサルル如キコト無ク從テ「クーン、ローブ」ニシテハ如何ナル形ニ於テモ支那ノ爲ニ資本ヲ投スルコト無キヲ以テ此ノ點安心アリ度キ旨ヲ述ヘタルニ依リ本官ハ「ウオーカー」個人トシテ支那銀行ニ參加スルコト無キヤヲ問ヒタルニ「ス」ハ「パートナーシツプ、アグリーメント」ノ關係上出來サル譯ナリト答ヘタリ依テ本官ハ支那財政援助ニ對スル我方態度ヲ述フルト共ニ宋子文ハ目下西北地方視察中ノ趣ニテ之ヲ終リタル上ハ「モネー」ノ如キハ必ス西北開發ノ爲有望ナル事業アルコトヲ吹聽シ米國事業家ヲ誘ハントスヘシト豫想サルルニ付テハ若シ「クーン、ローブ」ニ於テ斯ルコトヲ問題トセラルルニ於テハ豫メ御知ラセ願度シト述ヘタル處「ス」ハ「クーン、ローブ」ニ於テハ絶對ニ問題トスルコト無カル可シト答ヘタリ

近年「クーン、ローブ」ノ「パートナー」カ全部シツクリ行キ居ルヤ疑ノ節モアリ從テ「ウオーカー」カ別行動ヲ取ラストハ保證シ得ストノ觀測モアリテ尚警戒ヲ要スト認ムルモ「ス」ノ談話不取敢電報ス

米、英ヘ轉電セリ

英ヨリ佛、壽府ヘ轉電アリタシ

350　在中国英国公使へモネの会社設立計画に対する我が方立場説明および同人と中国に関する諸問題につき意見交換について

昭和9年5月13日　在南京須磨総領事より広田外務大臣宛(電報)

南京　5月13日後発
本省　5月13日後着

第四七六號

北平[(1)]發支宛電報第一七五號ニ關シ

十二日英國公使着寧セルヲ以テ大要左ノ如ク會談セリ

一、「カ」ヨリ今回ノ南下ハ「ルーテイン」ニ關スル二三小問題ニ付文書ヲ發送シ若ハ話合ヲ行ハンカ爲ナリ但シ本國政府ヨリ税率引下要求方訓令ノ次第モアリ「ビール」ヲ呼寄セ數字ヲ取揃ヘシメ支那産業ヲ害セサル程度ノ引下方非公式ニ交渉ノ筈ナルカ支那側ニハ更ニ引上ノ意向アルヤノ聞込アリ日本側折衝ノ經過如何ト尋ネタルニ付支那側ヨリ愼重ナル考慮ヲ加フヘキ旨ノ申出アリタルノミニテ如何ナル程度ノ引下ヲ行フ腹カハ知ラサルモ「マイナー、ポインツ」ニ付テハ引上クヘキカ全般的ニハ引下ケラルヘシト簡單ニ答ヘ置キタリ

二、「カ」ヨリ銀公司設立ニ關スル概略ヲ承知シ居ル處(往電第四四一號(一))日本側態度如何ト率直ニ尋ネタルヲ以テ累次御來示ノ趣旨ニ基キ本官ヨリ支那ノ混亂ヲ助長スル此ノ種計畫ニハ絶對不賛成ナリト述ヘ往電第四四一號(四)、ノ諸點ヲ擧ケ「モネー」等ト雖之等ニ對シ満足ナル説明ヲ與ヘ得サル實情ナルカ英國側ハ如何ト突込ミタル處「カ」ハ貴見ノ内(イ)舊債整理ノ方法立ツ迄新投資無カルヘシ(ロ)支那人ニ責任觀念アリトシ又經濟的機關ヲ設立ストノ點ニ於テ現實ニ卽セス(ハ)借款團トノ關係モアリ國際紛爭ヲ釀スノ惧アリ等ノ諸點ニ付テハ同感ナリト答フルニ止リタルヲ以テ本官ヨリ更ニ假ニ銀公司設立スル場合英國側カ之ヲ通シテ投資ヲ行フカ如キ事アルヘキヤト尋ネタルニ「カ」ハ恐ラク無カルヘシト答ヘ居タリ

三、[(2)]更ニ「カ」ヨリ支那側カ通車通郵問題ニ付判然タル訓令ヲ黄郛ニ與フルニ非サレハ北支ハ再ヒ不安狀態ニ陷ルヘシ但シ英國カ通郵問題ニ付聯盟不承認委員會ニ問合セ居ル次第モアリ右委員會ノ討議終ラハ兎ニ角今ノ所支那側モ解決方法發見ニ窮シ居ルニ非スヤト述ヘタルヲ以テ本官ヨリ聯盟ニ於ケル議論ト右ニ問題ノ解決トハ何等關係無ク支那側ニ於テ實行スヘカリシ事務上ノ問題ヲ速ニ實行スレハ簡單ニ解決セラルヘキモノナリト答ヘ置キタリ

四、條約改訂ノ問題ニ付テハ「カ」ハ往電第四七號(二)、「イングラム」談話ト同趣旨ヲ述ヘタル上本國政府ヨリ申越

シ來レル次第モアリ今回汪院長ニ面會ノ際ハ口頭ヲ以テ考慮中ナル旨述ヘ置ク積リナリト語リ居タリ

五、[(3)]「カ」ハ中央ノ非公式聲明ニ關スル反響モ漸次收マリツツアル模様ナルカ支那側ハ九國條約關係國ノ會議開催ヲ問題トシ居ルニ非スヤト尋ネタルヲ以テ本官ヨリ新聞ニ其ノ噂ハアルモ斯ルコトヲ本氣ニハ考ヘ居ラサル可ク在支外人モ取リ合ハサルモノノ如ク現ニ三日及五日ノ「デイリー、ニユウス」紙ニCatonナル假名ヲ以テ發表セラレタル長文ノ寄稿 The Far East. New policy wanted 中ニ於テ今頃九國條約ヲ云々スルカ如キハ實情ヲ無視スルモノナルコトヲ强調サレ居リ日本ノ東亞ニ於ケル地位カ漸ク外國ニモ判然ト認識サレ來レリト應酬シ置キタリ(上海ニ於テ「フレザー」ハ本官ニ對シ右「ケートン」ハ佛人ナル可シト述ヘ居タルカ大體ノ考ハ「フ」ヨリ出テ居ル點鮮カラスト認メラル)

六、尚同公使ハ十九日迄當地ニ滯在シ目下問合中ナル蔣ヨリノ返事ヲ待チ南昌ニ赴ク筈ナルモ右ハ勿論就任最初ノ「カーテシー、コール」ニ過キスト述ヘ居タリ

支、北平ヘ轉電セリ

351　昭和9年5月14日　在南京須磨総領事より広田外務大臣宛(電報)

モネの会社設立計画に対する我が方立場を仏国外交官に説明について

南京　5月14日前発
本省　5月15日後着

第四八三號

十四日當地佛國代表者「デユ、ガルデイア」本官ヲ來訪シ「コーポレーション」設立ニ關シテ「ホプノー」モ「ドラモンド」ヨリ極ク大体聞及ヒ居ルカ貴見如何ト尋ネタルニ付往電第四四一號(四)ノ諸點ヲ説明シタル後佛國側意嚮ヲ當リ見タルニ「ホ」ヨリ何等意見ヲ聞カサルモ貴見等ヲ參考トシテ何レ中央ニ報告スルモノト思考スト答ヘ居タリ

尚「デユ」ハ「ライヒマン」報告ニ關スル意見ヲモ尋ネ居タルヲ以テ往電第四八〇號「カドガン」ニ對スルト同様ノ趣旨ヲ私見トシテ述ヘタルニ「ホ」モ右報告ハ「センチメンタル」ニテ直ニ實行シ難キ點鮮カラサル旨報告シ居タリト内話セリ

支、北平ヘ轉電セリ

352　昭和9年5月15日　広田外務大臣より在英国松平大使、在米国斎藤大使、在中国堀内臨時代理公使他宛(電報)

中国建設銀公司設立問題など宋子文、ライヒマンおよびモネの活動に関する李銘内話要領について

本　省　5月15日発

合第五五四號

渡米ノ途次來朝セル上海財界有力者李銘カ十日重光次官ニナセル内話左ノ通リ、右ハ出所ヲ一切嚴祕トシ内容ハ文章等必要ノ變更ヲ加ヘ宣傳ニ利用セラレ差支ナシ

滿洲事件發生ノ當初張公權ハ滿洲視察中ナリシカ其ノ重大ナルニ驚キ日支ノ直接ノ交渉ニ依リ解決ヲ計ルノ外途ナキ旨時ノ政府ヲ動カシ居リタル宋子文ニ對シ自分(李)ヲ經テ建議シ來リ宋モ自分等ノ意見ニ一應贊成シタルモ「ライヒマン」ト相談ノ結果總テ聯盟ヲ通シテ日本ヲ壓迫スルノ方針採用セラレ所有ル宣傳、策動ハ「ラ」ヲ中心トシテ行ハレタリ日本ノ聯盟脱退通告後「ラ」ハ宋ト連絡シテ聯盟ヲ中心トスル支那開發案ナルモノヲ考案シ又「モネー」ヲ宋ニ紹介セリ宋ハ米國滯在中「モ」等ノ協力ニ依リ棉麥借款ヲ成立セシメタルカ同人ハ其ノ金ヲ利用シ且支那全國經濟委員會ヲ擴大シ又其ノ滯歐中傭入レタル聯盟關係ノ多數ノ顧問ヲ同委員會ニ配シ(「モ」「ラ」等ヲ首腦トス)以テ蔣介石等軍人ヲ排斥シ自ラハ右等機關ノ中心トナリテ武力ヲモ擁シ勢力ヲ張ラント劃策セリ然ルニ棉麥借款ハ主トシテ日本ノ反對ニ依リ有耶無耶トナリ聯盟關係ノ傭入顧問モ漸次去ルコトトナリ宋ハ蔣ヨリ極度ニ排斥セラレ玆ニ「ラ」及「モ」ノ劃策モ容易ニ成功ノ見込ナキニ至レリ然ルニ「ラ」及「モ」等ハ何トカシテ支那問題ニ關シ自分等ノ權威ヲ繫キ置カントノ考ヨリ宋子文トノ聯繫ノ最後ノ足場トシテ今回ノ銀公司ヲ案出シタリ銀公司ニ對シ外國資勿(本カ)ヲ誘フノ見込ハ今日迄何等ナシ只支那銀行ハ宋子文ニ對スル從來ノ情誼ヨリ割前出資ヲナシ張公權ハ名前ハ重役ニ列シ居ルモ自分(李)ハ全然關係セス

要スルニ銀公司ノ計畫モ「ラ」等支那冒險家ノ一ツノ策動ニシテ彼等カ自己ノ國際的權威ヲ保持シ一ツノ足ダマリニ之ヲ利用セントスルモノナリ被害者ハ卽チ支那ニシテ支那人中ニモ之ニ氣付キ反對スルモノ多シ

本電宛先　英、米、支、北平及南京

英ヨリ壽府ニ轉電シ又土ヲ除ク在歐各大使へ、米ヨリ紐育ニ夫々轉報アリタシ

353　昭和9年5月17日　在南京須磨総領事より広田外務大臣宛(電報)

中国建設銀公司設立問題などに関する孔祥熙との意見交換について

南　京　5月17日後発
本　省　5月17日後着

第四九四號

十[1]六日孔祥熙ト會見セルカ孔ハ二十日ヨリ開催ノ筈ナル全國財政會議ノ豫備會議開會中ナリシカ特ニ長時間ヲ割キ要領左ノ通リ會談セリ

一、財政會議ハ二十日ヨリ一週間乃至十日間開催セラルヘク各省雜稅ノ整理、徵稅請負制度ノ全廢、省財政ノ獨立等カ論議ノ主部トナルヘキモ要スルニ最近二年間ニ著シキ減退ヲ示(シ)ツツアル各省收入延ヒテ國民政府收入ノ增加カ目的ナリ

二、本官ヨリ鹽務稽核所制度ノ改正ヲ目論ミ居ル由ナルカ如何ト尋ネタルニ孔ハ周章ノ體ニテ右ハ自分等ノ計畫ニ過キス議題ニ上ルヤ否ヤ未定ナリト答ヘ居タリ(諸方面ヨリノ消息ニ依レハ鹽收ノミハ尙增加ノ餘地アリ滿洲國ノ成立ニ依リ崩壞セル一?千萬元制度ヲ建直サントスルヤノ計畫モアル由ニテ山東國庫券、九六公債等ノ關係モアリ注視中)

三、[2]次テ孔ヨリ廬山滯在中ハ足ヲ痛メ活動意ニ委セサリシモ蔣介石トハ數回內談セリ通車、通郵問題ハ日支間ノ解決ニ非サル樣ノ形式サヘ見出シ得ハ速ニ片ヲ着ケ得ヘク自然黃郛モ案外早ク歸北スルコトトナルヘシ

四、又銀公司ニ關シ日本ハ神經ヲ惱マシ居ルモ實ハ右公司ハ現ニ世界的不況ノ爲歸來シ居ル華僑ノ有志ヲ引當トシテ設立セラレタルモノニテ外國側ノ參加如何ハ日本ノ態度ニ係ルモ日本カ東亞ニ於ケル日支兩國提携ノ必然性ニ着眼シ進ンテ其ノ健全ナル發達ヲ助クルニ於テハ却テ外國ヲ排除シ得ヘク本件ニ對スル日本ノ態度ハ日本ノ對支政策ノ將來ヲトスル「バロメーター」ナリト辯明的ニ述ヘタルヲ以テ本官ヨリ例ニ依リ一々反駁ヲ加ヘタル處孔ハ頑トシテ納得ノ態度ヲ示ササリシモ未タ之ニ參加方ヲ決

定セル國無シト述へ居タリ
支、北平へ轉電セリ
支ヨリ上海へ轉報アリ度シ

～～～～～～～～～～～～～～

354　昭和9年6月21日　在中国有吉公使より広田外務大臣宛(電報)

中国建設銀公司が中英公司と共同で滬杭甬鉄道建設資金を引受けたとの情報について

上　海　6月21日後発
本　省　6月21日後着

第五〇六號

往電第五〇四號ニ關シ

陳介、大村へノ内話(出所極秘)ニ依レハ中央、中國、交通等ノ銀行ニテハ中英公司ト共同シ滬杭甬鐵道ノ杭州以南建設(錢塘江ノ架橋ヲ含ム)ヲ計畫シ居リ既ニ實行ノ段取トナリ居タル處宋子文ノ申入ニ依リ今回銀公司ニ於テ之ヲ引受ケルコトトナリタルカ其ノ資金ハ何レ一般銀行等ヨリ融通スルコトトナルへシトノ趣ナリ右出資金ノ出所乃至中英公司トノ關係等ニ付テハ取調中ナルモ不取敢北平、南京へ轉電シ上海へ轉報セリ

～～～～～～～～～～～～～～

355　昭和9年6月21日　在英国松平大使より広田外務大臣宛(電報)

モネの会社設立計画に対し否定的見解を対中国四国借款団英仏両代表披瀝について

ロンドン　6月21日後発
本　省　6月22日前着

第三二九號

當地正金支店長嘉(加カ)納借款團代表就任挨拶ノ爲本月初「アヂス」及「ドラショウム」訪問ノ際聽取セル事項トシテ最近本使ニ報告セル所要領左ノ通

「アヂス」曰ク「モネー」ハ支那ヨリノ歸途紐育ニ於テ「モルガン」商會ノ連中ヨリ信用ヲ博シタルモノノ如ク「ラモント」モ乘氣ナル趣ナルカ自分ハ成功覺束無シト觀察シ居レリ對支投資ニ日本ヲ除外スルハ借款團ノ精神ニモ反スルモノニシテ自分ハ之ニ同意セス尙借款團ノ仕事ハ當分起ラサルへシ

「ドラショウム」曰ク「モネー」ノ計畫ハ大規模ノ對支投資機關ヲ成立セシメントスルニ在ル處今次之カ拂込ニ應スルモノ無カルへシ自分ハ日本ヲ參加セシメサレハ對支投資ハ成功セスト信シ居レリ「モネー」ハ巧ミニ「ラモント」ヲ說得シタルモノノ如ク米國側ハ最モ乘氣トナリ居ル樣子ナリ

又「アヂス」ハ對支投資者ノ利益ヲ擁護スル見地ニテ支那ノ鐵道行政改革ノ要有ル處若シ支那ノ鐵道ニシテ軍閥抗爭ノ範圍ヲ脫シ有能ナル監督機關ノ下ニ置カルルニ於テハ支那內政ノ改善期シテ待ツへク而シテ支那ニシテ自己ノ費用ノミニ依リ右改革ヲ行ヒ得サルニ於テハ外國カ補助的ニ出資スルモ敢テ差支無カルへシト論シタルヲ以テ嘉(加カ)納ハ私見トシテ鐵道ノ発達カ政治ヲ助長ストノ一般的原則ハ支那ノミニハ適用セス今日ハ安心シテ支那ノ鐵道ニ投資シ得ル時代ニハ非サルノミナラス支那カ從來ノ債務不履行ニ關シ自覺セサル限リ外部ヨリ援助スルモ無益ニ終ルへシト述へタルモ「アヂス」ハ支那ニ於ケル鐵道改善ハ自然政治ノ改善ヲ齎スへシトノ論ヲ繰返シ居タリ

尙嘉(加カ)納ノ報告寫貴大臣及佛ニ郵送ス

～～～～～～～～～～～～～～

356　昭和9年6月25日　在中国有吉公使より広田外務大臣宛(電報)

ライヒマン、モネへの評価ならびに中国建設銀公司の活動見通しなど満鉄のキニーが上海経済界の外国人より得た情報について

上　海　6月25日後発
本　省　6月25日後着

第五一四號

先[1]般來當地ニ滯在中ノ滿鐵「キニー」ハ外國人金融界、財界、操觚界各方面ノ主要人物ト會談ヲ試ミタル結果ヲ我方ニ內報シ居レル處御參考トナルへシト思ハルルモノ二、三左ノ通

(一)、外國人仲間ニ於ケル「ライヒマン」ノ不評判ハ全ク意想外ナリ滿洲事變ノ際ニ彼ノ暗躍ハ却テ支那ノ爲ニ重大ナル不利益ヲ齎シタリトノ印象ハ今モ拭ヒ去ラレス曩ニ聯盟ニ提出セル彼ノ報告ノ如キモ無慘ナ程無力無價値ノモノト一般ニ認メラレ彼ハ再ヒ支那ニ歸來セサルへシト信セラレ居レリ但シ日本カ躍起トナリ彼ノ歸來ニ反對スレハ聯盟ハ依怙地トナリ再ヒ彼ヲ歸來セシムルモノト觀

測シ居レリ

(二)[2]、「モネー」ハ元來取立テテ云フ程ノ人物ニモアラス一般ニハ確實有利ナル外國投資ノ目的物ヲ物色ノ爲來支セル「ビジネス、スカウツ」ニ過キスト看做サレ居レリ彼ハ他人ニ向ツテ或ハ「クーンレーブ」ノ代表ト云ヒ又或ハ「ラザー、ブラザース」ト關係アリト稱ヘ居レルモ左程密接ノ關係アル譯ニハアラス彼ハ聯盟ヲ辭職後一時「ウオーカー」ト稱スル銀行家ノ許ニ働キタルコトアリ「ウ」ノ經營スル銀行カ「ク」社ニ買收サレタル爲彼モ「ウ」ニ從ヒ自然「ク」社ト關係ヲ生シタル次第ナレトモ「ウ(ママ)」社ノ對支財政援助ト云フカ如キ大規模ノ計畫ヲ獻策シ得ル程ノ地位ニアルモノニアラス且宋子文ト紐育ニテ初メテ相知リ相互利用ノ關係ヲ生シタル點紐育銀行家ニモ認メラレタルニ過キヌ故ニ「モ」ノ報告ニ依リ直ニ「ク」社トカ「ラザー、ブラザース」トカ乃至ハ「モルガン」等カ動クモノト見ルハ見當違ナリ

(三)、銀公司ニ關シテハ當地銀行界ニ於テハ或一派ハ株主銀行タル支那銀行ニ對スル外國銀行ノ信用モ近來相當增加セルニ加ヘ公司ニ對スル投資ニ付テモ內五割迄ハ支那側ニ於テ引受ケ殘餘ヲ外國ヨリ投資スト云フ仕組ナルヲ以テ將來相當外資誘致ノ成績ヲ擧ケ得ヘシト見ル向モアレトモ一般ニハ未タ山ノ物トモ海ノ物トモ見詰(極カ)着カサルモノト看做サレ居リ

目[3]下來滬中ノ一有力米國銀行家ノ如キモ外資誘致ハ先ツ支那側ニ於テ現實ニ投資ニ誠實ヲ示シタル後ノコトナリト觀居レリ尙同シク來滬中ノ一有力英國銀行家ハ現ニ上海ニ於テスラ投資ノ目的物ヲ求メテ得ス徒ニ死藏サレ居ル多額ノ支那資本アルニアラスヤ宋子文ハ倫敦ノ遊資ニ着目セル次第ナレトモ銀公司カ標榜スルカ如キ事業ニ對シ外資誘入ノ必要目下ノ所無カル可シト述ヘ居タル由

(四)、何レニセヨ對支投資ニ對スル外國側目下ノ態度ハ至極用心深ク第一ニ投資(ハ)上海又ハ或ル極メテ限ラレタル地域ニ限リ確實ナル擔保ヲ有シ且經濟委員會ノ保障アルコトヲ條件トシ尙日本ノ協同又ハ少クトモ反對無キコトヲ條件トシ居レリ

(五)、宋子文ハ支那銀行家ノ間ニ漸次評判ヲ落シツツアリ彼等ハ表面ハ宋ニ好意ヲ示シナカラ內心反抗シツツアリ銀公司ニ關シテモ宋ノ統裁ニ反抗セルカ如キ一證左ナリト

觀ラレ居レリ

北平、南京ヘ轉電セリ

357　昭和9年6月29日　在中国有吉公使より広田外務大臣宛(電報)

滬杭甬鉄道建設計画および中国建設銀公司の内情に関する情報について

上　海　6月29日後発
本　省　6月29日後着

第五三二號

往電第五〇六號ニ關シ(滬杭甬鐵道杭州以南建設ノ件)

一、曾宗鑒ノ岩井領事ヘノ內話ニ依レハ元來浙江省政府側ニテハ錢塘江架橋ヲ計畫シ材料ニ要スル資金ハ團匪賠償金英支委員會ヨリ支出シ其ノ他ノ資金ハ中央、中國、交通、浙江、實業等ノ諸銀行ヨリ供給スルコトトナリ居リ(七月二十日入札ノ廣告アリ)タル處右架橋設計ハ「ライト、マテリアル」ノ單線ナル爲滬杭甬鐵路局ニテハ之ヲ變ヘ「ヘヴイー、マテリアル」ノ複線トシ且中英公司ヨリ資金材料ヲ供給スル案ヲ出シタルカ同時ニ鐵道部ヨリ錢塘架橋ノ外全線開通トシ資金二百萬元ノ內債募集案ヲ立テタル矢先(前記入札延期ノ旨廣告アリ)宋子文ヨリ銀公司ニ經營方申入アリ結局ハ省政府、中英公司及銀公司ノ三者カ夫々土地、材料、資金等ヲ提供スルコトトナルニアラスヤトノコトナリ

二、廿八日孫恒謙ハ大村ニ對シ銀公司モ內部ノ統一取レス(最初宋子文ハ腹心謝作階(楷カ)ヲ委員長ニ推シタルモ往電第二二八號末段ノ事情ニテ採用セラレス宋子良委員長トナリタルカ同人ハ兄宋子文ト餘リ好カラサル今日ハ孔祥熙ノ部下トナリ居レリ)漸ク本件鐵道ノ資金調達ヲ引受クルコトニナリタルカ資金ハ結局各銀行ヨリ出シ銀公司ハ之カ「アンダー、ライター」トナル位ナルヘシ尙銀公司西北開發計畫ノ如キハ殆ト實現性ナシト思ハルト內話セル趣ナリ(本電出所極秘)

北平、南京ヘ轉電シ、上海ヘ轉報セリ

358　昭和9年7月(12)日　在英国松平大使より広田外務大臣宛(電報)

中国建設銀公司設立計画に否定的な見解および

国務省は対中国四国借款団米国側銀行団の現状維持を至当とする旨ラモント内話について

ロンドン　発
本　省　7月12日前着

第三七六號（極秘）

「ラモント」[1]數日前來英七月十日本使ヲ來訪シタルカ其ノ際談話ノ要領左ノ通リ御參考迄

一、昨年御話シタル支那財政諮問委員會設置ノ計畫ニ對シテハ自分ハ飽迄其ノ勸誘ヲ拒絕シタル處過日「モネー」ヨリ來翰アリ「モネー」ハ支那ニ於テ研究ノ結果此ノ際日本ヲ措ヒテ同委員會設置ノ不可能ナルヲ認メ此ノ點ニ付テハ自分(「ラ」)ノ態度ノ正シカリシコトヲ認識スル旨申シ來レリ

二、又「モネー」ハ支那銀行ノ設立ヲ計畫シ居ル處自分ハ斯ノ如キ必要ヲ全然認メ居ラス過日李銘當地ニ於テ自分ヲ來訪シ李ハ本事業ハ支那自身ニ於テ爲スヲ然ルヘシト考ヘ居リ自分トシテハ本計畫ニ對シ熱心ナラサル旨語リ居リタリ

三、「ライヒマン」過般支那ヨリノ歸途紐育ニ於テ自分ヲ來訪セル際自分ハ同人ニ對シ「ライヒマン」カ從來南京政府ヲシテ聯盟ノ力ヲ藉リ日本ニ飽迄對抗セシメントスル方針ヲ採リ來リタル趣ナルカ如何ト質シタルニ「ライヒマン」ハ支那ノ現狀ヲ視察研究シタル後結局日支事件ハ日支間ノ直接交涉ニ依リ解決スルコト然ルヘシトノ感想ヲ得タル旨語レリ

四、[2]更ニ米國ニ於ケル對支借款團解消（紐育發貴大臣宛電報第八四（八九カ）號及第九一號參照）ニ關スル意見及其ノ後ノ發展ノ模樣ヲ尋ネタル處「ラモント」ハ右借款團ニ關係アル米國銀行數ハ三十餘アルモ新法律ニ依リ是等借款團ノ存在ノ意義ヲ殆ト消滅セシムルニ至リタル際自分ハ出發前國務省當局トモ會談シタルカ國務省當局ハ日本側ノ意見ヲ尋ネタルニ付自分ハ日本側ニ於テハ之ヲ好マサル模樣ナリト答ヘタルニ對シ國務省側ニテハ日本トハ目下海軍問題ニ關シ重要ナル折衝ヲ行ハサルヘカラサルニモ鑑ミ此ノ際少シニテモ日本ニ對シ非友誼的ニ思ハレ又日本ノ輿論ヲ刺戟スルカ如キコトハ成ルヘク之ヲ避クルコト然ルヘキニ付國務省當局ハ本件ニ付現狀維持ノ必要ヲ認メ自分ニ對シ銀行團ヲ說得スル樣依賴アリタリ

五、本使ハ近來支那側ニ於テ種々公債募集計畫ノ噂アリ殊ニ米國ニ於テ起債ヲ計畫シ居ルヤノ噂モアル處何等聞込アリヤト尋ネタルニ「ラ」ハ本問題ニ關シテハ種々噂アレトモ米國側ニ於テハ目下何等斯ノ如キ企圖ニ關係ナシト斷言セリ唯義和團賠償金ニ關聯シ英國側トノ間ニ某鐵道ニ關シテ右ノ借款說アルヤニ聞キ居ルモ其ノ他ニ關シテハ自分ハ何等關知セスト語リタリ

米ニ轉電シ佛、壽府ニ暗送セリ
米ヨリ紐育ニ轉報アリ度シ

359　昭和9年9月27日　在ニューヨーク沢田総領事より広田外務大臣宛（電報）

ニューヨーク滞在中の李銘およびモネの動向などに関するソコルスキー内話について

ニューヨーク　9月27日後発
本　省　9月28日前着

第一三七號

李銘英國ヨリノ歸途當地ニ滯在中ニテ別ニ「モネー」モ當地ニ來リ居ル聞込ミアリタルヲ以テ二十六日「ソコルスキー」ニ尋ネタル處「ソ」ノ內話スル所左ノ通

一、李ハ約十日滯在ノ後一週程前桑港向出發シタル筈ナルカ倫敦ニテ「アヂス」ハ李ニ對シ支那銀行團カ「ホウルハーテツドリー」ニ銀公司ヲ守立ツルニ於テハ自分(「ア」)等モ援助方考量スヘシト述ヘタルニ李ハ支那銀行ハ宋子文一派ノ强制ニテ參加ヲ餘儀ナクセラレ居ルモノニテ自分達ノ業務ヲ取上ケラルル結果トナル銀公司ヲ歡迎スル筈ナシト答ヘ當地ニ於テモ李ハ各方面ニ此ノ趣旨ニテ話シ華府ニ於テハ特ニ「モーゲンソウ」氏ト懇談シ矢張上述自說ヲ繰返スト共ニ聯盟ノ對支援助ノ如キ內外ニ紛糾ノ種ヲ殘スノミナルヲ附言シタル由ナリ

二、「モネー」ハ最近來紐シ「クンロウブ」ノ「ウオウカー」邊ノ援助ニテ「オウールストリート」近クニ事務所ヲ開キタルカ自分(「ソ」)ハ右ハ「モネー」カ支那ニ於ケル仕事ニ目鼻着カサル爲ナラント解シ居レリ例ヘハ「モルガン」ノ如キハ六月十五日以後「デポジツト、バンク」トナリテ直接對支投資ヲ行ヒ得ス「クンロウブ」ハ「インベストメント」シ得ルモ其ノ買ヒタル「ボンド」ヲ捌ク要アル處今日當地ニテハ之カ引受手ナキ狀態ニテ此ノ意

味ヨリスレハ巴里邊カ「モネー」ノ活動ニハ最都合良カラント思ハルルモ「モ」カ當地ニ來リシハ巴里ニテモ望薄キヲ證スルモノト見ルヲ得ヘシ目下當地ニテ支那ニ金ヲ出シ得ルモノハ政府アルノミナルモ之トテモ「ジョンソン、アクト」ニ縛ラレ居ルノミナラス(對東支鐵道借款ハ米政府ノ出資ナリト「ソ」ハ解シ居レリ)棉麥借款ニテ兎角ノ批評ヲ受ケタルニ顧ミ今直ニ支那ニ投資スル氣分ハナキヤニ聞キ居レリ從テ「モネー」ノ事務所開設ハ暫ク支那ヲ見切リテ他ノ事業ニ手ヲ染メントスルモノト解シ得ルモ他方「モ」カ當地ニ腰ヲ据ヘルヲ待チテ宋子文渡米ノ噂モアリ從テ彼等一派ノ暗躍ハ尚注意ヲ要スヘシ云々

尚先般蔡廷楷(鍇カ)及張發奎當地ニ來リ居レルカ今日(?)「ソコルスキー」ノ話ニテハ蔡ハ目下地方講演ニ出掛ケ居ル處「フレンズオブソビエット」其ノ他ノ共産黨分子ト聯繫ヲ計ル底意アル疑アリトノコトナリ

米、英ヘ轉電セリ

英ヨリ佛、壽府ヘ轉電アリタシ

360　昭和9年11月17日　在仏国三谷(隆信)臨時代理大使より広田外務大臣宛(電報)

対中国四国借款団仏国代表はモネの活動に理解を示しつつあるとの情報について

パリ　11月17日後発
本省　11月18日前着

第五二七號

倫敦[1]正金ノ加納氏カ九日印度支那銀行ノ「チオン(?)・ド・ラ・ショーム」ト會見シタル際「チ」カ述ヘタル要領トシテ内報セル處左ノ通

(一)「モネ」ニ付テハ銀公司ノ仕事ハ今迄ノ處成功ナリトテ前途ニ關シ稍樂觀的口吻ヲ洩シ多年印支銀行ニ勤務セル「マゾー」モ數箇月前引退ヲ申出テタルニ付其ノ功勞ニ對シ充分慰勞金ヲ與ヘテ引退セシメタルカ「マ」ハ引退ト同時ニ銀公司ニ入所シタル次第ナリ印度支那銀行モ時機到來セハ香上銀行同様支那ニ於ケル起債ニ應シ度キ考ナリ(支那ニ於ケル起債ニ應スルコトハ借款團協定ニ反セサルモノト解ス)ト述ヘ加納氏トシテハ前同會見ノ際(六月八日)ニ比シ「チ」カ著シク「モネ」ト接近シツツアルモノノ如ク感知サレタリ

(二)[2]成渝鐵道ニ付テハ六箇月程前元中法實業銀行ニ關係アリタル「ペルノウ」ナル者「チ」ヲ來訪シ詳細ナル計畫ニ付説明シ中法實業銀行カ有シ居ル雲南、四川ヨリ佛領印支那ニ至ル鐵道敷設權買入ヲ慫慂セルモ「チ」ハ危ナ氣アリト思ヒ斷リタリ

(三)正太鐵道ハ有望ニハ相違ナキモ未タ具體化セス目下ノ處資本家ハ金ヲ殖ス事ヨリハ之ヲ失ハサルコトニ腐心シ居ル次第ニテ現在ノ佛國ニテハ五千萬法ノ對支投資モ難カシク佛國資本ノ支那投資計畫ハ時機尚早ナリ

英、米、紐育、壽府ヘ轉報セリ